立教學院學報

第二號

豐な希望をもつて
戰時下感激の入學式

學部

陽春四月、益々發展隆昌の途に邁進しつゝある我が經濟學部及び文學部に溌剌たる譽れある新入生を迎へて、盛大にいとも嚴肅に入學式が擧行せられた。先づ學長より學生の動向諸般に付いて說明あり、後阿部學生課長より過去三年間諸君の訓育監督の指導に當つたけれど愈々學部に進級されるに付いては現今非常時下に於て益々自肅自戒して過される樣にと訓辭あり、次いで田邊經濟學部長より別面掲載の如く諸般に亘つて訓辭あり式を終了した。

豫科

志願者千五百五十名の中より選ばれた本年度の豫科新入生入學式は、四月廿日土曜午後一時より總長を始め學長、豫科長以下諸教授の參列の下に、豫科百一番教室に於て盛大に擧行された。

此の日豫科新入生徒三百六十一名は定刻零時三十分豫科校庭に整列、豫科三年生クラス委員諸君の指揮で出席を取りAクラスより百一番教室に入る。武藤教務課長の司式の下にライフスナイダー總長の流暢な日本語の訓辭があり、我が立教大學の理想「神と國とのため」を明かになされ、精神、知識、身體の三方面を鍛へられん事を述べられ次いで遠山學長は先づ皇紀二千六百年の春を祝し、全學生は一家族になりて人格の陶冶をなし明るい眞の立教ボーイになられん事をと云はれ、宮城遙拜の後、會禰豫科長の訓辭あり、配屬將校佐藤大佐の挨拶、一、眞面目にして元氣。二、出席第一主義に徹底すべし。三、教練と日常の行動とは一致しなければならぬ。所謂教練の實際化、以上、と云はれ、阿部學生課長の挨拶、學生課とは學生取締、學生監視の樣に考へるだらうが其れは主ではない。諸君の訓育上たまたま左樣な事をするのであつて色々と諸君の身の上相談に應ずるものであるから諸君と親しく附合ふと。最後に受持主任教授、A組金子教授、B組鋼島教授、C組土屋教授、D組本庄教授、E組小松教授、F組和田教授の紹介ありて新入生には多大の感銘を與へ、感激嚴肅裡に退場。引續き二時三〇分より三百十一番教室に於て父兄會が開かれ學長の挨拶、豫科長挨拶並びに紹介學生課長の挨拶、又、立教大學同窓會長平澤氏の挨拶があり和氣藹々の裡に四時三十分散會した。

會禰豫科長訓辭

本學の教育方針に就ては、既に總長及、學長先生が明かにした。私は其れを少しく敷衍して話したい。本學の學則の第一條の始めに「國家に須要なる學術の理論及應用を教授し並に其の蘊奧を攻究する」とある。此の事は何處の大學でもやつてゐる事である。ところが第一條の最後の項に「基督教主義に基く人格の陶冶を旨とする教育を施す」とあるが此れは本學の特色をなすものである。此の「基督教主義に基く人格の陶冶を旨とする教育を施す」と云ふ教育と云ふ事は諸君を皆キリスト教信者にしやうと云ふのではない、一言にして云へば今日世界の人が認めて、萬人の師表と仰ぐイエス・キリストの如き不動の信念献身、犧牲の尊い人物の養成を理想とする教育をほどこすと云ふことである。勿論其を不完全な教師が此の樣な大きな事をなし得るものではない。唯私達は教師の立場に於て出來るだけ此のキリストの精神を實踐しキリストに學びたいとこゝろがけてをるのである。諸君も亦此の同じやうな精神を身に着けて社會に有用なる人間たるべく切磋琢磨せられたい。豫科時代は學問、人格何れの點からしても基礎工事の大事な時期である、學部に行けば專門の學科の攻究に忙しく、又三年級にもなれば就職問題で落着かないのであるから豫科の三年間に諸君の品性をきたへ、學問にはげんで將來學部に進み、更に社會に出た場合に對する充分の準備をせられたい。以上の樣な覺悟を持つて豫科生たる第一歩を踏出されん事を希望する。

立教大學に學位規程認可さる
——經濟學部から博士誕生

文部省學專二九二號により昭和十五年二月十四日付を以て、立教大學學位規程が新に制定され、立教大學教授會に於て審査された論文によりて本學經濟學博士、及び商學博士の學位號がこれら學究の士に認可される事となつた。

學歴絢爛たる研學の餘榮は新に、本大學の學究の士に新らしい研學の道をひらいて、斯に充實せる我が立教大學教授會の實情にかんがみ文部省當局はその權威を教授會に託して、立教大學經濟學部研究科學生の苦心なれる論文に對して博士號認可の審査をなさしめ、斯に新博士の誕生を見る事近きにあるに至つた。

本學研究科に於て二年以上專攻科目の研究に從つた之ら研學の學生はその在學中、おそくとも退學後一ケ年以内に學位請求の論文を學長のもとに提出し經濟學部教授會の審査によつてその研鑽の實を結ぶこととなるのである。

我が權威ある立教大學教授會の頒ぶれとその專攻審査課目は次の如くである。(昭和十五年一月現在)

經濟原論　前帝大教授　經濟學博士　田邊　忠男

經濟政策　經濟學科長　法學士　河西太一郎

行政法、行政學、植民政策　國際法　B.A., Ph. D.　松下　正壽

歐洲經濟史　前帝大教授　經濟學博士　本位田祥男

法學　社會學、新聞學　法學士　文學士　小山　榮三

商法　前大審院判事　法學士　三橋　久美

工業經營學、經營統計學　經營學　經濟學士　鋼島　達

前帝大教授　經濟學士　中西　寅雄

英經濟學　Litt. D.　根岸由太郎

會計學　經濟學博士　理財學士　三邊　金藏

英商業學　B. Sc.　須藤吉之祐

金融市場及金融機關論　前東京商大教授　經濟學博士　高垣寅次郎

商法　法學士　竹田晉次郎

民法　法學士　竹田晉次郎

景氣論、產業構成論　經濟學士　田中　精一

財政學　法學博士　商學士　内地　廉吉

經濟學史、日本經濟史　經濟學士　山下　英夫

折も折　權威と特色を誇る
立教大學アメリカ研究所

立教大學同窓會を主體とし立教大學父兄會の合流を得て結成された立教大學維持會は、この四月確實なる方針のもとに廣く各方面からの期待を望まれつゝ着々と準備工作を行つて居たがこの程、その文化に貢献する所大なる趣旨と内容を發表し立教大學の特異な存在を江湖にあきらかにした。

立教大學アメリカ研究所は大學維持會の寄附行爲によりて得たる資金を以て設立されたるものであつて、本學が他の官私の大學と異る特色たるアメリカとの密接なる關係を有意義に活用し、我國に於けるアメリカ文化研究の中樞機關たらしめる目的を以て日本に於て始めて開所され他の追隨を受けないものであり、立教大學がその特色を生かすだけでなく、日米兩國間の理解と親善に寄與するところは大なるものがあると信ぜられる。

昭和十四年一月この研究所の方針が決定するや大學當局は教授、學生、及び關係者の援助によつて着々その下準備として大學設付のアメリカ關係の文献を蒐集整理し大學圖書館の二千冊の圖書及び日本へ於いて發行されて居た洋書などの目錄を逐次しらみつぶしに調査、購入し將來の蒐集圖書の藏書册數を八萬册以上と企圖して居り、いつでも立教の研究所へ行けばアメリカの何でも判る事が出來るやうにといき込んで居る。これら圖書の調査の一班は松下教授演習の學生たちも應援し……アメリカ……なる横文字を發見するやピンとその意識を働かせるぐあいである。

立教大學學内委員會を大學當局と各學部教授の代表者から組織し、各自の專門的な立場からアメリカ關係文献蒐集のために圖書目錄の作成に盡力されて居るのであり、既にその第一次の事務の完成を見た。即ち 1、立教大學圖書館所藏アメリカ關係洋書目錄　2、第一回アメリカ向寄贈依頼の圖書目錄　3、第二回アメリカ向寄贈依頼の圖書目錄　4、第一回アメリカ關係邦書文献目錄の完成である。既に2の第一回アメリカ向寄贈依頼の圖書目錄は、米國に向け發送され從來から立教大學圖書館の充實のために絶大なる後援を惜まない紐育のチャーチ・ペリオディカル・クラブが中心となり有能廣汎なその組織網を利用して目錄の如く圖書の蒐集に從つて居るとの報知があつた。

立教大學にアメリカ研究所成るの報はいたく米國朝野に好感を持つて迎へられ、立大名譽圖書館長スパックマン氏の渡米報告の盡力により立教學院前總理タッカー米國聖公會大監督を始め、カーネギー、ロックフェラー財團の名士、大學總長、教授などによるアメリカ側委員會の設立を得、將來を期待し得べきものがある。更に昨十四年十一月カーネギー平和財團から寄託圖書館に指定する旨の申出があり、同財團の一切の發行出版物は立教のアメリカ研究所へ寄贈される事になつた事は既知の事である。同財團の出版物はその内容の優秀と既往に於いて尨大な册數を發行して居り、その權威は廣く認められて居り就中、世界大戰に關する叢書、國際關係の文書の如きは著名なものであり、遠からず研究所に到着すると期待される。

尚、學内委員會は將來、研究員として研究所の中樞をなすもので、C・S・ライフスナイダー總長、遠山郁三學長、曾根武、高松孝治、松下正壽、富田彬、十河佑貞諸教授、D・オーヴァトン、山下英夫副圖書館長により組織されて、此の外に日本側賛助委員會としてアメリカに關係多き内外の貴顯に願ひ研究所事業の援助を得、着々その事業の盛大ならんことを企圖して居る。

アメリカ研究所はアメリカ文献の一大蒐集を完成整理の上廣く公開し内外の閲覽に便ならしめ、本邦のアメリカ研究の促進運動の先驅をなすものであつて研究所の内部組織は八部に分れその中、研究部に於いては第一部門經濟、第二部門政治、第三部門文化に分類され種々の研究が發表され、事業部は定期公開講演會、夏期大學を行ひ、特にアメリカに關する研究講座として今秋から三講座が開講されその成果を期待されて居る。

本學總長ライフスナイダー先生御夫妻は來る五月十八日の日本郵船龍田丸にて歸米の途に就き、歸任は來春の豫定。

Bishop Reifsnider's message to Rikkio Students

In this the 2600 the anniversary of the founding of the Japanese Empire, the people of this land of the Rising Sun are called upon to realize a new Order in East-Asia. This ideal is not only a matter of the mind but more particulary of the heart. To bring this ideal to pass an ideal of lasting stability in this part of the globe and hence a great contribution to world Peace as Premier Yonai Phrased it, a sacrificial spirit is needed on the part of every Japanese in every walk of life, a change of heart, the elimination of selfishness in each of our individual relation and contacts, social, economic and political, an ideal of "All for one, one for all" !. In this most critical period in the histry of Japan, you Rikkio students have your part to play, either for or against the best interests of society. Much depends upon your ideal. whether or not you appiroach each responsiility with the firm determination to act Unselfishfully, to contribute your meed of good to every contact and opportunity offered you to make the general welfare of mankind your first consideration. Self interest must be made subservient to the greater welfare of your fellow men, of your nation, and of the peace of the world. A world wide brotherhood of man is not only a possibility but a necessity: if we are to live at Peace the one with the other. But such a Brotherhood is only possible as each individual does his bit to realize it.

I urge you to teach practice and live this Brotherhood in your social and economic relations; and in this Way you will be forwarding a glorious new order in East Asia and at the same time furthering world peace. You knights of the ideal for "God and Fatherland" are required as never before to give of yourselves unselfishly unstintingly. to battle for the right. The new Order of East Asia must begin with a change of heart in each one of you. You each one of you, Rikkio students past and present have a part to play in its realization and history's final judgment of its ultimate good for the world and its pease with depend in part upon the way you individually shall have acuitted yourselves of the responsibility entrusted to you.

Farewell for a time. Into your hands I commend Rikkio's ideal "For God and Gountry." Under its inspiration may you fulfil your alma materls and your country's expectations in regards to your share in the realization of a new order for East Asia.

社說

田邊教授訓辭

近頃の學生は眞面目によく勉强するやうになつたといふことをよくきくと同時に、どうもイージーゴーイングだといふ評もよく耳にする。恐らく兩方とも眞實なのであらう。戰爭といふ嚴肅な現實と「東亞新秩序」の建設といふ高邁な理想に直面し、即ち學生といふことのために徵兵延期の恩典に浴してはゐても、卒業すれば片輪でもない限り、陛下の兵として奉公するといふ、謂はゞ彼等にとつて直接な具體的な現實の裡にあると同時に、「利潤追求」を原則とする經濟機構を戰爭目的のために强行的に再編成する戰時經濟機構の持つ諸々の矛盾は漸く顯在化してきたといふ、謂はゞ彼等にとつて、間接な一般的な現實は、學生に今更の如くに「人生とは、人間とは、眞理とは何ぞや」といつた類の問題を提起し、その追求を要求して止まないだらう。この面から、學生は眞面目になり、よく勉强するやうになつたのであらう。事實、學生の間に官軍江戸入城に際しての、あの有名な福澤諭吉の挿話が憧憬と感慨をこめて語られ際物の多い新刊氾濫の中にあつて大部の「古典」がコツ〳〵と讀まれる傾向にあるのは、極めて喜ばしいことである。

併し「今年度卒業生實切申候」といつたやうな就職狀況と、「東亞新秩序」の建設といふ高邁な理想が、見透しはあつても、統一的な具體策としては、國內的にも國外的にも、政治的にも經濟的にも、充分に一般的な承認と確信を有するに至つてゐないといふ止む得ざる過渡期の混亂はやゝもすれば、學生をイージーゴーイングならしめると同時に懶疑的にし、そして共に享樂面へ押し出す結果になる。かうゆうところに後者の評の根據があるのであらうが、學生がこのやうな傾向になつたことは、今迄の日本の教育方針といつたやうなものにも責任の一擔はあるであらう。何故なら、一頃の「學生運動華やかなりし頃」に際して、不當にも、特定の思想の排斥の代りに思想一般を排するやうな風潮を生ぜしめるやうな教育方針をとつたのであるから。併しながら、こゝで學生に望むのは、彼等自らが、自らの安易性と懷疑とに打ち克つことである。

「いかにしてそれを爲すか」答へは簡單である。卽ち「勉學」。學生はこの言葉を屢々聞かされることによつて、或は敬遠するかも知れない。だが學生諸君はこの言葉の持つ眞實の意味と意義とを自分からで考へたことがあるであらうか。「勉學」はたゞに學生の本分たるに止まるのみならず、人間の本分であり、「勉學」は單なる本を讀むことに止まるのみならず、ものを考へることである。このことによつてわれ〳〵は、われ〳〵がおかれてゐる現實の本質をみきはめ、且つ現實の解決・前進への途を知るのである。而して正しく知ることなくして正しい行動はない。「勉學」に勵む者には、安易は許されないし、又徒らなる懷疑はない。無論「勉學」は薔薇の敷かれた大道ではない、だがそれは茨の道のみでもない。そこには努力なしには到達されないとは云へ、一望千里の眺望を擅に出來る峰もあるのである。而して、何よりも知ること自體が悦びでなからうか。

筆者は與へられた「學生時評」の域を脫して、學生諸君に對して指圖がましいことを書いたかも知れない。併し、何はともあれ、筆者は若々しい諸君の誠實と情熱とに、日本の前途の懸つてゐることを思ひ、諸君に絕大な期待をかけたい。(一九四〇・四・三〇)

新しく本學經濟學部に入學された諸君に對し一言所感を述べて祝辭としたい。

諸君は本學に入學される以前既に十幾年かの學校教育を受けて來た。今やその最高のものを求めんとして此處に來られたものであらふ。從來我が國に於ける教育の傾向は兎角劃一的なものであつた。斯樣な劃一的なる教育が正しき教育であらふ筈がない。『自由の學府』としての立教大學は此の意味に於て諸君に眞の教育を與へんとするものである。

此處では諸君を大人として取扱ふ、一個の人格として待遇する、此處では自由が許されてゐる。諸君は皆自由濶達に勉强する事が出來る、即ち『自由の學府』と稱する所以である。然し乍ら此處に一つの問題がある。『自由』とは『手段』である、『自由』卽『目的』ではない。手段と目的は混同してはならない。吾々は此『自由』の手段を驅使して大學の使命達成に邁進するものである。然らば大學の使命とは何か？ 卽ち謂ふ所の知育、德育、體育、これである。大學に於ける知育とは學の蘊奧を究めるの意にして知育こそ大學教育の第一義的要素である。而して德育は、明知に依つて培育され補はる可きものである。體育又然りと云へやう、知育の缺除せる體育は野蠻である。

立教大學は三年前一大改革を斷行し諸講座の編成、配列を一新した。今他の官私諸大學を觀るに舊態依然、彼等は皆一八八〇年代の古風を現在に迄踏襲してゐるのである。然るに我が大學は最新の經濟學の到達せる成果の上に立ち、斯界の最高水準を行かんとするものである。經濟科は原論を中心とし各論を四圍に配備し、商學科は經營學會計學を基軸として其の陣容を整へてゐる。擔當教授は總て新進氣鋭を網羅し、日本に於ける他大學に比し遜色無きのみならず、行く〳〵は世界有數の大學たらん事を期して努力してゐるのである。

さて諸君は本大學に入學し今後三年間の自由を享樂するの特權を有したものであるが、一度眼を外に轉ずれば諸君と同年の大多數は砲彈雨と降る戰場に、自由どころか己が生命をすら危險に曝して働いてゐるのである。これを思へば其の特權たる自由を濫用して放埒に墮するを戒心するは勿論、其の特權を當然と納得する迄勉强せねばならぬのであり、又それを希望するものである。國家は人材を要求してゐる。人材とは何か？ 偉い人か？ 古來『偉い人』とは大臣大將の意であつた。而して『偉い人』は數多く輩出したであらふ。然し私は敢て云ふが諸君は此の所謂『偉い人』に成らふと云ふ希望を持つ必要はない。『偉い人』は現在爲す處多くないのみならず『偉い人』になる爲めに勉强すると云ふ從來よりのイデーは、現在日本が直面せる非常時局の段階に於て漸時其の缺陷を曝露しつゝあるのである。諸君はむしろ現時の國家多難に際し『何を爲すべきか』に對する明白な科學的認識を把握する事こそ緊要である。而してこれこそ大學の使命にも合致するものである。優秀な國家とは武力に强いのみを云ふのでは無い、『文化國家』こそ眞に優秀な國家の名に値ひするものである。諸君は特權として獲得せる將來の三年間を自由に且つ有意義に生活し我が君國をより優秀なる國家たらしめんが爲大いに勉勵されん事を希望するものである。

……○○○……

人事移動

學部新任

經濟學部

福田教授

本學經濟學部に國際經濟事情の講座を擔當されてゐる福田講師は、東大經濟學部卒業以來本學經濟學部の重要なる一環として、當講座の研究に盡されてゐたが今度新たに教授として新任され益々その將來を囑望されてゐる。尙來る秋よりアメリカ講座が新設されるに付き、同教授に諸般の研究の指導を仰ぐ事にならう。

鈴木助教授

昭和十二年卒業以來、經濟學部助手として研究室にあつて研鑽に勵まれてゐた鈴木圭介助手には、此度目出度く助教授に昇進、前教授田中精一氏の後任として產業構成論を擔當されることになつた。

同教授は立教生え抜きの新進學徒で、將來を囑望されてゐたが、今度講座を擔任されることになり、ます〳〵立教の講壇に光彩を添へることゝ期待されてゐる。

神野璋一郎助教授

東大經濟學部卒業以來、野村證券調査課に勤務才腕を振はれてゐた神野璋一郎氏には、今回同證券よりその手腕を惜まれたが學究としての希望もだし難く本大學助教授として來任した。

同教授は實業界にあつて積まれた多彩な學識を以て、商業經營學に一段の活氣を呈せしむるであらう。

中村武嘉講師

新任された同講師は、東大出身で、今年度より商品學を擔當されることになつた。

戸田武雄講師

東大經濟學部出身で本校に於て英語經濟學を擔任される。

文學部

遠藤敏雄講師

同講師は宗教科に於て宗教學及びギリシア語を擔當される。

森脇　要講師

哲學科助手として、研究室におられた同講師は、心理學擔當で教壇に立たれることになつた。

佐藤正奏講師

研究室に助手として殘つてゐたが今度、哲學科に講師として教育學を擔當されることになつた。

鈴木光武講師

東大文學部出身で、宗教科に於て宗教史宗教學を擔任される。

林　達夫講師

同講師は評論家として知られてゐるが、今度本學講師として來任し、英文學科に於て歐米諸國史を講議される。

豫科

谷川徹三講師

文學部講師としておられた、同講師は、豫科に於て文學概論を講義されることになつた。

小林通雄講師

同講師は東大文學部出身で、本學に於て西洋史を擔當される

金子武雄講師

今度、新に國語を擔當される同講師は、東大文學部出身である。

細入勝太郎講師

同講師は本學文學部出身の新々學徒で、英語を擔當される。

外人教師消息

スコット博士家族及びフアウラー教授家族は六月廿八日、日本郵船龍田丸にて歸米、猶、スコット博士は九月よりハートフオード、コネテイカットのトリンテイカレッヂに於て教鞭を執られる由。

本學、英文科教授ブランスタッド氏は來る七月十三日、日本郵船鎌倉丸にて約一年の豫定でネブラスカ州オハマの氏の故郷に一と先づ落着き、個人教授に就きて、教會音樂を勉强する。

圖書館だより

前號で立教圖書館が新刊圖書の卽時閲覽制度を實行することを報告したが、圖書館は更に閲覽室の一部を開架式に改め新學期より實施することにした。目下の所約二千册の邦書のみを陳列してゐるが將來は之を擴大し洋書をも加へる考へである。周知の如く、學校圖書館でこの制度を採つてゐる所は我國では何處にもなく、實に立教圖書館を以て嚆矢とする。既に自由入館圖書の館外貸出、新刊書の卽時閲覽等他に見ざる特色を有する我が圖書館が、今回更に之の制度を採つたことは、我國圖書館史の一頁を飾ることにならう。學生諸君の利用を希望する次第である。

又、圖書館では學生用の黑板質問箱をも近日備へる豫定で、一層學生諸君の聲を聞きその希望の實現に、努力する考へである。

☆(　)(　)☆

創立記念日

人間萬事慣れると別に苦にもならず、平氣で暮らすのが普通一般である。米の飯のありがたさなどは之迄誰も痛感しなかつたのであるが、此頃の樣に外米何割といふことになると始めてそのありがたさ、うまさに氣が付く。然しこれとて日がたてば當前に考へられるに相違ない。

創立紀念日を迎へて毎年想起することはウイリアムス老監督の事ども である。滅私奉公といふ言葉は、此度の日支事變以來常用されるが老監督に於てはその日常生活がこの言葉の具現であつた。

我が立教の標語「神と祖國との爲」に老監督は日本の青年を教育されたのである。

ともすると我々立教人は「神と祖國との爲」といふ標語に余りに慣れて居るので、それを翫味しそれを噛みしめることを忘れて居る。

創立記念日に際して、少しでも我々立教人は老監督を偲び建學の精神を再認識してその發揚に邁進する覺悟を新にせねばならぬ。

(武藤安雄氏寄稿)

中學だより

昭和十五年四月行事豫定

四月一日(月)　午前八時始業式後、職員會。午後二時新入學式。

四月三日(水)　神武天皇祭。

四月四日(木)　全校明治神宮靖國神社參拜。

四月六日(土)　第四時新入學生宣誓式。

四月十日(水)　學校市役員及學友會評議員選擧。

四月十一日(木)　第一時初頭級長任命式。晝食後全校千川堤方面へハイキング。

四月十二日(金)　放課後學校區會。

四月十七日(水)　放課後補習打合會。

四月二十二日(日)　放課後學友會評議員會。

四月二十五日(木)　靖國神社遙拜式。

四月二十六日(金)　放課後の補習開始。

四月二十九日(月)　天長節。

新入學考査の狀況

一、募集人員　一二〇名

一、生徒募集受付期間

一月十五日(月)ヨリ二月三日(土)マデ

一、應募人員　三三七名

一、入學考査期間

二月十八日(日)ヨリ同二十四日(土)マデ

一、入學許可發表　二月二十八日(水)

一、入學許可人員　一二〇名

教職員移動

退　職

擔任學科、地理、歷史　淺井得一

就　職

擔任學科地理　中野竹四郎

擔任學科地理、歷史　森　義則

演習室發表

月曜　福田教授「現在國際政治經濟諸關係の研究」

鍋島教授「厚價計算」

火曜　小山教授「人口問題」「社會生態學」

水曜　山下教授「日本資本主義の諸問題」(その發展並びに現狀の諸研究)

金曜　河西教授「支那問題」

論文

農村工業に關する一研究

教授　山下英夫

事變に際して我國の社會機構は更新し得るのではないか、或は進んで、更新すべきではないか、さう云ふ氣運が相當各方面に見られるやうに思ふ。殊にその場合に農村機構が先づ第一に更新せられるべきではないかとの意見がある。この場合に何を契機として我國の農村機構が改變せられるかは色々擧げ得るであらうが、その中の一つに所謂農村工業がその重要な一契機を成すものではないかと考へられて居る。

そこで今農村工業に就て述べる場合に、その農村工業と云ふのは所謂農村に於ける重工業、機械工作工業に自ら限定されて來るのであつて、一般の農村の農産物加工業として考へられて居る農村工業は玆に問題とならない。それは我國の農村の機構を更新し得るや否やと云ふ立場からは一應除外さるべきだからである。從つてこゝでは農村重工業だけに限定したいと思ふ。その場合に一般には農村重工業の中、理研に於て行はれて居る所の農村工業、これが謂ふところの社會更新の立場から重要な役割を果し得るのではないかと云ふ期待が一番多く懸けられて居ると思ふ。

そこで勢ひ理研の農村工業を中心にして報告をするのであるが、その前に農村工業一般を三つに分けることが便利と思ふ。即ちこの理研農村工業の他に、理研に於て行はれて居るやうな所謂農村の下請工業と云ふものではない所の、純粋なる機械工業が各地方に分散して居る。かくの如き下請工業にあらざる親工業は勿論理研以外にもあるわけである。かゝる意味の純粋の重工業と、それからもう一つは兩者の中間型とも見られるやうな、工業と農業の双方の相關聯せしめて行ふやうな場合、農工兼業の場合の農村工業これである。これは嚴密に農村工業と云ふには當らぬかも知れないが、例へばその從業員が一方では工業勞働者であり、他方では依然として農業關係者であるといふやうな相互關係を持つて居る場合の工業を、假に農村に深い關係を持つた重工業と見做して、その三つに就て各々分析を行つて見たいと思ふ。

第一の理研の農村工業の本質については、既に周知のやうに完全な農業に對立した意味での工業と云ふ形では出現して居ないのである。大河内博士の諸著書を見ても、飽迄これが農業と對立する、或は農業を侵蝕すると云ふやうな、さう云ふ意味の工業ではない。その點では寧ろ農村工業と言はれるよりも農業の副業であると言ふ方が適當だと云ふことを繰返し主張されて居るのでも分るやうに、元來が農村の家計補充を目的とする工業と云ふ風に私には考へられるのである。勿論こゝで問題とせる理研の農村工業は既に一般に熟知のやうに、親工場に對する下請工場の形で行はれて居る。例へば新潟縣の柏崎のピストンリングの工場、それに對する琵琶島の農村工場がその下請工場として存在して居るし、又同じく新潟縣の柿崎のツウイスト・ドリルの工場が長野縣の浦里にその下請工場を持つて居るが如くである。更に柿崎を中心にした農村には今日盛に家庭工業、家内工業式な下請工場を建設中であると聞いてゐる。大體さう云ふ意味の下請工業、又は家内工業を目標にして考へる場合に何が今日理研の斯樣な下請工業を特殊ならしめて居るのか、特に農村との關係は如何なる點でそれが結付き得るのかと云ふことを考慮すると、結局熟練度の低い勞力を以てして尙斯樣な機械工作作業をなし得る特殊な設備をすると云ふ所にあるのではないかと思ふ。

その技術的基礎は所謂シングルバーパス・マシーンに外ならない。それは從來の萬能工作機械を各効果に分解して、極めて單純な、單一な目的にのみ適合され得るやうな工作機械に分けたものである。それを親工場からそれ〴〵の下請工場、又は家内工業に從事するものに貸與して居る所に、理研工業の農村との關係が結ばれて居るのである。だから斯樣なシングルバーパスを目的として居る爲にその勞働の技術は極めて單純化されまして、多くも一週間、早きは二、三日にして熟練すると云ふことが報告されて居る。これは誠に驚くべきことである。この一事によつても我々が今日熟知して居る所の熟練工の問題と理化學研究所に於て言ふ所の熟練と云ふものとは全く範疇差別的なものであると云ふことを知ることが出來る。

このシングルバーパスの組織と云ふものは必ずしも理研が初めて採用した方法ではないのであつて、既に歐洲大戰の時も尨大な軍需に適應する爲にイギリスを始め諸國に於てこの技術が採用されたのである。恐らくは當時歐洲諸國をその戰時生產施設の視察の爲に廻つて居られた大河内博士はそれを目前に御覽になつて來られたのであらうと思はれる。

だからこのシングルバーパス・マシーンは、若しも我國のやうなこの事變下に於て、もつと事變そのものが困難になり、もつと長期に亘つて繼續するやうな場合には、獨り農村に於てこれを採用するばかりでなく、都會に於ける重工業に於てもこれを實行しなければならぬと云ふ場合も考慮され得るのである。勿論現狀に於てはその必要がなく、又實際に於てさうなるとは考へたくないのであるが、歐洲大戰の經驗を以て見れば法的强制力を以て、これを實施した例もあるのである。

然しながら斯樣なシングルバーパス・マシーンの效果は戰時中に限られて居るのである。一度平和の鐘が鳴ればこの方法を以てしては過剩生產に陷る虞れが充分にあるのであつて、それに對處する方策がなければ、このシングルバーパス・マシーンに依る生產方法は實行上甚だ危險を伴ふのである。それにシングルバーパスであるから、そのマシーンの經濟的な生命力、耐久力が甚だ短いのであります。現に理研に於てもその生命力を大體五年と計算して居ると云ふが、寧ろそれだけ持續するか否かは疑はしい位である。

從つてこの固定資本の部分を絕えず更新して行かなければならぬと云ふ重大な支障が横はつて居るわけである。それと關聯致してこの固定資本部分を極めて急速に更新する爲には、勢ひ勞働者への負擔轉嫁と云ふことが烈しく行はれなければこの更新が不可能になる虞れが生ずるわけである。成可く早くその機械を運轉して大量生產をなし、同時に他方では賃銀を切下げ、さうして利潤を擧げると同時にその償却資金を積立なければ、この急速なる更新に間に合はぬと云ふことになる。斯樣な一般論としての缺陷を持つて居るシングルバーパス・マシーンの工作が現に理研に於て實施されて居ると云ふわけであるが、それを今日本の農村に於て適用する場合に上述の如き缺陷が如何なる形で現はれて居るか、勿論この過剩生產と云ふものは現在に於ては軍需方面がその市場であるからその限りに於ては問題が起つて居ない。たゞ機械の更新及びそれに伴ふ所の賃銀の低價と切下げ、斯樣な方面に於てのみ現在の農村と問題の關聯が生ずるわけである。然るに理研の農村工業に於て今日一般に支拂はれて居る賃銀は極めて低いのである。理研の科學主義工業と一般に總稱されて居る場合には高賃銀、低コストと云ふことがモットーであると云はれて居るが、これは別の見方に於てはさう云ふことも可能であるとしても、賃銀は極めて低いのである。これは大阪商大の發等教授の發表であるが、今日日本の機械工作に於ける總生產費の中勞賃に當る部分の比率は大體二〇%と云ふ數字が擧つて居るのに對して、理研の柏崎ピストンリング工場に於ける割合は僅かに二・三%と云ふ尙少な數字が擧げられて居るのである。これは他ならぬ理研の報告書に依る數字である。尙補充的にその關係を述べると、理研の柿崎工場の下請工場である長野縣の浦里村のツウイスト・ドリルの工場に於ける職工の賃銀は、男工一日一圓に對して女工は五十五錢乃至三十四錢の間を上下して居り平均四十二錢と云ふ數字が擧つて居る。その女工年齡は大體十七歲から二十五歲位の間のものであるが、この年齡別に依る日本の女工の賃銀、殊に最も低いと言はれて居る所の紡績女工の賃銀に比較しても、尙且理研柿崎工場の下請工場に於ける賃銀はその紡績女工の賃銀を下廻つて居ると云ふ事實に注目すべきである。これは賃銀部分に就ての比較であるが、何故斯樣な低賃銀が支拂はれなければならないかと云ふことは、前述の如く非常に急速な固定資本部分の償却が行はれなければならぬ爲に外ならない。

さうして斯樣な賃銀を受取る所の勞働力の性質は女工からなつて居る。詳しいパーセンテイヂは省略するが柿崎工場などでも男工は總數の中一割に當るか當らぬものが從事して居るに過ぎない。大部分は年少の女工を以て充てゝ居るのである。これはシングルバーパス・マシーンによる。熟練度の極めて低い、單純に習熟し得る技術である爲に、女工で充分間に合ふからであつて、斯う云ふ所に理研工業と云ふものゝ、農村との關係が存在して居ると思はれるのである。

これによつて見れば最初に課題とせる我國の農村機構の更新と云ふ事が理研の工業に依て果して可能であるかどうかと云ふ問題、これは殆ど回答の要がない事になりつゝあるのではないか。勞働力の吸收に於ても女子勞働の吸收が行はれるために、それが農村勞力の不足と云ふ形になつて現はれるかどうかこれは農業勞働力は單なる勞働でなく極めて實的に注意を要する勞働——土地の性質を知悉する經營主の勞働——が中心になつて始めて行はれるのであるから、單に女子の勞力を吸收したと云ふだけでは農村に於ける勞働力が一轉換をすると云ふわけには行かぬのである。況や平和產業に於て今日多數の纖維勞働者、殊にその女工が歸農の他はないと云ふ聲を聞く時に、この型の理研農村工業が農村勞力吸收に最大の機能を果すとは到底考へられぬのである。それならば尙農家の農業外の現金收入と云ふ形に於て何等か農村機構に大きな影響を與へるかと云ふと、成程絕體的には現金收入が殖えては居るのであるが、それに應じた資本主義經濟との關聯も亦深まつて來て、その支出も增加して居るのである。從つて必ずしも收入の增加が直ちに農業勞働の使役とか、又は農業機械の採用と云ふ形になつて現はれるとは限らぬのである。況や前述の如く低賃銀に依る收入であります から、この場合は矢張り收入增加と云ふことが我國農村機構の更新を齎らす程度のものとは到底考へられぬのである。

さう云ふ點から考察して、結局理研の現在の下請工業、理研の言ふ所の農村工業と云ふものは、現狀に於ては農村の輕工業又は農村の農產物加工業と云ふものが農村に對して與へるものと大體似たもの、或は本質的には異らないと云ふ解釋を與へて差支へないと思ふ。

次に斯樣な下請工業ではなくて、地方都市に分散して居る農村重工業が我國の農村に如何なる關係を生ずるかと云ふ問題である。これは所謂工業立地に基いて、或は材料が、或は原料が又は製品の運搬に便なる、或は製造に必要な動力、水その他のものが惠まれて居る所、さう云ふ所を目指して重工業が地方に分散して居ると云ふことであつて、その方面に於ては特に農村工業と言ひ得るや否や甚だ疑問である。寧ろこれは都會に於ける重工業と本質的には同一なものではないかと思はれる。只農村にある爲に低賃銀の勞力を利用し得ると云ふことは云へるが然しながら將來この農村工業が資本主義機構の更新を來たし得るかと云へば、それは必ずしもその見込が充分にあるとは言ひ得ないのである。その可能性があるならば既に今日迄に於て最早さう云ふ傾向が見られなければならぬのである。都會重工業の發達は寧ろ日本の農村機構を益々締め付ける關係になつて居るし、同じことが地方分散化した重工業に就ても言へるのではないかと思ふ。

次に第三の農工兼業の場合であるが、これに就いては勞働科學研究所の內海氏が愛媛縣の新居濱に於てそこの住友の別子鑛山、住友化學工業、住友機械製作所等の住友系の諸工場で、その職工が晝間は工場で働き、朝夕は農業に從事して居ると云ふ特殊な型を研究され、その結果を發表されてゐる。それによると斯う云ふ場合の農村工業、農業と工業との兼業が將來の日本の農村機構に如何なる影響を與へるかと云ふに、益々兼業的な零細農になつて行くのである。例へばその地方の農村では分家が容易に行はれる、一町歩の耕地を持つて居た者が三人で分家致して三反宛の耕作をする。その家計の不足は別子の諸工場から補ふわけで、そこから家計補充的な賃銀を稼ぐ。さう云ふわけで農業と工業を兼業しながら農業自體から見ると益々零細化して行く。さう云ふ意味に於ては從來の日本の零細農の狀態が益々緊縛される傾向が見られるのである。斯う云ふやうな方面の重工業がその近接の農村と兼業的關係を持つ場合でも、日本の農村機構と云ふものは、益々緊縛化されることはありましても、決して開放されるやうな傾向を辿つては居ないと云ふことだけは云へると思ふ。

結局農村工業と云ふものを斯樣に三つの方面から分けて見ても、我國農村の生產關係即ち零細小作農制、或は現物高率地代さう云ふ本質のものが今日迄行はれて居る我國農村機構は、所謂農村工業に依つては決してその基礎を動搖せしめられては居らぬ。寧ろ逆に現存農村機構の上に立脚して、重工業化して行く農村工業が一層發展して行く傾向にあるのではないかと思はれる。日本の農村機構と云ふやうな歷史的社會的に深く根差す所のあるものがその基礎を搖り動かされるのは、決して斯樣な一部の方法を以てして可能ではないと云ふことを我々はこれに依つて敎へられるのである。

現在の農村工業が段々農村に侵蝕して來ると農村自體の經營は大經營が可能になるのではなくて、逆に益々細胞的な零細經營に落ちて行く。そこに私共は將來の我國農村社會と云ふものが分解と迄は行かなくとも何か一つの旋回運動を起すモメントになるのではないかと思ふのであるが、結局の問題は土地問題の解決であつて、斯樣な農業上の零細經營が、どれだけの影響をそれに及ぼすかと云ふことである。だから今日の農村機構が廢棄せられて、農村勞力が不足を告げて來る、大經營が行はれて來る、或はその爲に機械が應用される、さう云ふやうになる爲にはかゝる零細經營だけでは決して實現されぬのであつて、況やそれによつて、土地問題の解決の如きは及びもつかぬのである。さう云ふ諸現象が繼起して來て、尙そこに土地問題の解決をどう云ふ風に要求するか、そこにこそ根本の問題が横はつて居ると思ふ。

懸賞論文募集

☆本學經濟學會は創立十周年紀念事業の一つとして懸賞論文制度を設けた。應募規定は大略左の如し。

一、資格—本學經濟學部學生
一、論題—自由(特に今回だけ)
一、紙數—四〇〇字五〇枚以內
一、締切—本年九月下旬
一、詮衡委員—會長、顧問、經人會幹事其他
一、賞—一等一名　拾圓圖書券
　二等二名　五圓圖書券

×　×

☆横濱商工會議所主催、紀元二千六百年奉祝懸賞論文募集規定
一、題目—我國貿易の發展策
二、枚數—四百字二百枚以內
三、賞金—一等千五百圓　一
　二等二百五十圓　二
四、締切—昭和十五年九月卅日

×　×

☆滿鐵主催懸賞論文募集規定
一、課題—「我等新天地滿洲」
一、紙數—四百字四十枚內
一、締切—六月二十日
一、賞—滿洲地方視察

塔人聖塵

×

文庫本の氾濫は讀書熱の昂濤を意味するよりはその安易さを買はれて居るからであり、その體裁を愛されて居るからだ。その際の內容は、今事變のこれらの新讀者層からは問題とされない。

×

學生を打つて一丸とした立敎大學の二六〇〇年を祝ふ大學祝典を擧行すべき氣運はまづ學生一般層から湧起るべきである。ないものづくしの世の中に學生が餘り論爭をしなくなつた。

往年の溌剌たる元氣も失せて、老成した感慨を持ち出して來た。

×

眞實の意味の學究をはき違へて、雜學的な學生が立敎にもふえて來た。演習室の脫落者はその現象と云つていゝ。

文學の世界といふ意味

高垣松雄

文學青年、哲學青年などゝいふ言葉は普通あまり香ばしからぬ餘韻をもつてゐる。少々人間が甘いとか、思ひあがつた奴だとか云ふ感じを伴つてゐる。そこへゆくと史學青年といふ言葉は未だ一般化されてゐないが、これは恐らく史學を勉强するやうな青年は地味で、研究資料といふ鐵鎖を足首にからませてゐて、行動の自由があまりないところから、幸にして流行語の對象とはならないのであらう。ところが宗教青年といふ名稱は、特別の形容詞を冠せないでも、よほど前からキリスト教青年にきまつてゐたものだ。近年では佛教青年とか、青年團とか云つて、キリスト教青年は影が薄くなつて了つたが、考へてみるのに、世間から何やかやと特別な呼び名をつけて貰ふのは必ずしも名譽でもなければ都合のよいことばかりでもないやうである。それで、わたしは何となく史學をやつてゐる人が羨しく思はれる。

と言つても決して自分の專攻してゐることについて卑下してゐるのではない。英語青年といふ雜誌があるが、嘗て十七八年も昔のことだつたと思ふが、その雜誌關係の會合があつた席上岡倉由三郎先生が英語青年は永劫青年で、いつまでも若く、精力に滿ちて、前進的であるべきだと述べられた。英語英文學を勉强する若い人々が自ら永劫青年だと稱して觸れ歩くことは兒戲に類するけれども、岡倉先生が一つの雜誌について語られたところを我々の覺悟とすべきは當然すぎることである。我々は英語にこだわつてゐるべきでない。文學といふ言葉の意味を詮鑿して、文藝學とか文藝作品といふ用法を區別するのもいいが、文學の世界とは何であるかを明確につかんでゐることが望ましい。

文學の世界とは人間的經驗の一切を含んでゐる筈のものである。その世界を我々はみな觀察し、批評し、體驗によつて各自の生命の伸張と充實とを感じてゐるのだが、普通の人と專門學徒との間には幾段階があるべきであり、普通人が多くは受動的に經驗するに對して反動するところをも專門學徒は、教養、訓練、自省の程度に從つてではあるが、能動的に、意識的に反動するのが一般である。學問は凡そ意識的努力によつて成れるものであるが、文學の世界が人間的經驗の總べてを包攝してゐるのだとしたなら、英文學を他の史學、哲學、宗教學等から切離して考へることは間違つてゐる。同樣に、哲學なり史學なり宗教學なりが英文學（諸他の國民文學を代表させて云ふ）に背を向けることも謂はれなきことである。視野を更に擴げるならば、文學の世界は經濟の世界をも包んでゐると考へなければならない。文學は經濟の中に包まれて了ふことはないが、文學は經濟を包むといふ意味は、經濟生活が人間經驗の形而下的な部分であつて、文學は總ての經驗を綜合し、方向を與へることを以て最高の職能としてゐるからである。經濟生活と學問としての經濟學の研究とは一應區別されるべきであるけれども、經濟學もまた廣義の文學の中に入るといふのが、わたしの考へである。

ひとたび學問の世界に足を踏み入れて、我々は喜悅とともに絕望に近い感慨に陷ることがある。大洋の岸で砂の數を數へる、といふ比喩を近代の學問の父が述べたといふ。これは、いつまでも新しい訴へを以て我々に迫つて來る。だが、學問は永遠の前進である。無限の探求である。學問の喜悅は創造的發見、つまり實踐の中にある。絕望はそれが停滯した時にやつて來る。革の如く弱き人間は不斷の精進と實踐とに堪へられないであらう。休息による精力の蓄積で必要とされることは否まれない。從つて休息は必然の權利である。しかし休息とは無爲を意味するものではない。注意の轉換によつても休息はえられるのであつて、さういふ際に狹義の專攻研究課題から眼を遠く放つて諸多の關係學科の中に存在する必要の知識的養分を吸收する努力がなさるべきである。これは異る專門を志す者が相互に協力することにもなるであらう。我々は孤立的に事をなすわけにはゆかぬのである。

青年には青年の心境があり、壯年、老年にもそれぞれ特異な境涯がある。しかも個人としての制約にもかかはらず、學問のつながりに於て、老年も、壯年も、青年も同じく無限の探求の道を歩んでゐるのである。專門學府の存在が統一體であるのはかうした意味を外にしては考へられないことである。

（一九四〇・五・一〇）

今日屆いた三越洋書部の月報の表紙に「寺田寅彦氏の「色々な書物を遠慮なくかじる方がいいかも知れない。宅の花壇へ色々の草花の種を播いて見るやうなものである。そのうちで地味に適應したものが榮えて花實を結ぶであらう。」といふ言葉が印刷されてある。「何を讀むべきか」といふ問に對しては私もまた寺田さんのこの言葉を以て答へる以外にはないやうに思はれる。讀書の習慣といふものは喫煙の習慣と同じやうで、その樂しきを覺えると、もう一生涯やめられなくなるものだが、最初は別に人に敎へられて讀書を始めたといふわけではなく、いつの間にか本を讀むことが好きになつてゐるといふのが、讀書の眞の樂しさであり、また要諦でもある。つまり「といふものは讀むもよし、讀まざるもよしで、嫌ひな人にはいくら讀書をすゝめても何の効果もなだらうし好きな人は人からすゝめられる前に、自分の好きな本を勝手に選擇して愛讀してゐるであらう。

しかしこれでは答へにならないから、僕が學生時代に愛讀した書物、もしくは最近管見に入つたものを、學生諸君にすゝめたいものをアト・ランドムにあげることにしよう。

僕等の學生時代には哲學書を讀むことが大へんに流行して、岩波書店發行の灰色の布表紙の哲學叢書が爭つて讀まれたものであるが、と同時に阿部次郎著「三太郎の日記」とか田隆著「哲學以前」倉田百三著「愛と認識の出發」といふやうな、われわれの人間觀、人生觀を鍛へてくれるやうな書物が非常に歡迎された。以上の三書は今でも盛んに版を重ねてゐるらしいが、それだけの價値は充分にある本だと信じる。

われ〳〵はいかにして生れたのであらうかといふ素朴ではあるが、根强い疑問は、物ごころがつく頃には誰しも必ず抱く疑問であるが、この疑問はわれわれ日本人はいかにして生じたか、われ〳〵の民族の歷史はいかなるものであつたかといふ、むづかしく云へば日本人としての自覺と當然に結びつく。そのやうな際にわれ〳〵が渴くやうにして求めるのは古代日本に關する知識である。われ〳〵の國土はどれほどの古さを有つか、上代の日本人はいかなる生活をしたか、われ〳〵の祖先はどのやうな文化的遺產をわれ〳〵に殘してくれたか、以上のやうな問に親切に答へてくれる書物は恐らく無數に在るに相違ない。しかし私が是非とも諸君の一讀をすゝめたい書物は濱田耕作著「東亞文明の黎明」（創元社）と和辻哲郎著「日本古代文化」（岩波書店）である。これらの書物はわれ〳〵の知識欲を充分に滿足させてくれると共に、われわれの國土に對する熱烈な愛情をかき立ててくれる。同じやうな意味から岡倉天心著「茶の本」（岩波文庫）「東洋の理想」（創元社）も是非讀んで貰ひたい書物である。私が「東洋の理想」を始めて讀んだのは最近のことに屬するが、もし高等學校時代にこの本を讀んでゐたら、外國文學の研究などを決して自分の專門にしなかつたらうと思つたほど私は感動した。

支那に關する書物も今日では無數に刊行されてゐるが、群を絕して立派なのはやつぱり內藤湖南著「支那論」ではないかと思はれる。人によつては「支那論」を內藤博士の著作中第一に押す向きもあるやうだが、これほど實證的な知識の上に起ち、しかも高邁にして透徹した史眼を供へた書物は稀らしい。と同時に歐米の文化の濃い影響の下に育つた現代支那の眞の文化人の支那觀として、林語堂の著作にも諸君の注意を求めて置きたい。

最後に私は諸君にすぐれた小說を讀むことをおすゝめしたい。蓋し人生について、人間について多くを敎へ、諸君の感情を陶冶してくれるものは文學を措いて他にないからである。小說については特に何をあげるといふことは不可能であり、無意味でもあるが、要は諸君とコンヂェニアルな、つまり肌のあふ作品を選ぶ事である。いかに古今の傑作でも讀んで興趣を覺えなければ、何等の滋養分をも給してはくれない。これは食物の場合と全く同樣である。われわれはまづ自分の背丈に合つた作家や作品から出發して、次第にそれらを卒業してゆくことが望ましい。われ〳〵はゲーテよりも島木健作の方が好きな時代があつても決して構ひはしないのである。大切なことはいかにしてそれらの作品から拔け出るかといふことであらう。そのときわれ〳〵は始めて小說を讀んだと云へるのである。

何を讀むべきか

河盛好藏

經濟學を如何に學ぶべきか

宮川實

經濟學を如何に學ぶべきか。これは本紙の編輯者が私に對してなした質問である。しかし恐らくこれはまた經濟學部に新たに入學した總ての諸君が聞かんと欲するところであらう。それゆゑ私は、私自身の研究の經驗に基いて、この點に關し諸君の參考になりさうなことを二三列擧することとしよう。

一、正しい研究の方法を把握すること。もしも諸君が東京から大阪に行かうと思ふならば、諸君は西に向つて進むべきである。北に向つて進んでも迂廻さへすれば結局大阪に到着することはできるかも知れないが、それでは多大の時間と勞力とを空費することとなる。科學における研究方法は、研究といふ大旅行に對して正しい方向を指示するものである。研究對象は、正しい研究方法に從つて處理された場合にのみ、その內的關聯を顯はにする。それゆゑ科學の研究においては、正しい研究方法を把握するといふことが基本條件である。實際吾々は、科學の領域において多くの人々が、最も强烈な科學的情熱を有し、倦むを知らざる碎骨の努力を拂ひながら、正しい方法を理解しないために、科學の進步に貢獻することを少なく、貴重な生涯を殆んど徒勞に終えてゐるのを、餘りにも屢ば目擊してゐるのである。もちろん初學者にとつては、正しい研究方法を把握するといふことは、極めて困難なことである。しかし諸君は幸に、獨學者ではなく、優れた敎授團をもつ學部に學ばれるのであるから、あるひは敎場において、あるひは研究室において、この點に關してよき指導を受けうる筈である。

二、基礎理論を先づ研究すること。學部には原論、學史、經濟史、產業構成論、景氣論、經濟政策等極めて多くの學科があつて、その何れを先づ研究すべきかについて諸君は迷はれるであらう。もちろんこれらの諸學科は、何れも重要であり且つ熱心に研究されねばならないものである。しかしその何れを正しく研究し且つ理解するためにも、諸君は先づ原論を學ぶべきである。このことは、これらの諸學科が何を研究するかについて考へて見れば、自から明白である。經濟學の諸學科は、資本制社會の經濟的構造とその運動法則とを闡明することを窮極の目的とする。そして諸學科は三大グループに分たれてゐる。第一のグループに屬するものは、原論とその各論をなす諸學科である。原論においては資本制社會の經濟的構造とその運動法則とがその全體において、その全關聯において、研究される。それは資本制社會の生理學であり全學科の基礎である。各論をなす諸學科においては、經濟的構造の重要な一側面が引き出され、更に立ち入つて研究される。それゆゑ各論の研究は、原論における一般的研究を前提とするものである。原論の理解なくしては、各論的諸學科は理解されえない。第二のグループに屬するものは、經濟史である。經濟史は前資本制社會の經濟史と資本制社會の經濟史とに分たれる。前者は資本制社會の經濟的構造を理解するとき始めて、正しく且つ容易に理解される。けだし資本制社會は今日までのところ最も發達せる社會形態だからである。後者は、原論が一般的理論的に闡明する資本制社會の經濟構造と運動とを、各國の具體的特殊的な現實とにおいて研究する。各國の資本主義の構造と運動とは、それぞれその國の歷史的諸事情のために、特殊な形態をとる。しかしその特殊なものを通して。一般的な發展法則は依然として自己を貫徹する。それゆゑ經濟史を研究するためにも、原論の知識は不可解な前提をなす。第三のグループに屬するものは、經濟學說史である。學說史は、資本主義の發達の各段階に現はれたる經濟理論——資本主義の構造と運動との分析——の批判史である。それは原論の發達史に外ならない。その研究の前提が、資本主義の構造と運動との正しき理解——すなはち正しき原論の知識であることは自明である。

三、經濟理論の研究は歷史的順序の逆になさるべきこと。經濟理論には、勞働價値說に基くものと、限界効用說に基くものとの二大潮流が對立し、その中間に折衷學派が介在する。そしてこれらの學派は何れもそれぞれ自己の歷史を有し、未熟幼稚なものからより精密完全なものに發展してゐる。諸君はその何れの學派を研究するに當つても各學派の最後の發展段階を先づ學び、しかる後にその基礎の上にそれ以前の發展諸段階を研究さるべきである。このことは極めて重大である。何が各學派の最高の發展段階であるかを、諸君は先づそれぞれの敎授についてきき、それについて學ばねばならぬ。かくすることにより諸君の研究は著るしく容易となるであらう。

負傷後日物語

和田正俊

戰地から歸還して、よく自分は人から負傷の見舞を受ける。又其時の有樣などもよく聞かれるので、玆に負傷に付ての感想やら實驗談を述べて見やう。戰爭の場所、日時、編成等は一切觸れない。

よく人が云ふ「彈なぞ中るものではない」と、併し自分は、「彈はよく中る。併し仲々死ぬものではない」との結論に達して居る。彈なぞ中るものではない、と云ふ連中は、恐らく匪賊掃蕩か、討伐位にしか行かないものだらう。匪賊との交戰位なら一戰爭やつて二三名の死傷者を某單位隊から出す位であるが敵が陣地を構へて居る所に突擊や白晝前進をやれば、必ず多くの犧牲者を出すのである。又兩霰の敵砲彈の集中下では中るのが當然であつて、中らないのは奇蹟なのである。彈は中るが、めつたに死ぬものではないから彈を恐ろしがつてはならない。一帶彈を侮ればつまらぬ所で怪我をする。

或る戰場で川一つを隔てゝ敵と對陣し、お互に堤防を楯として、猛烈な射擊戰を展開して居た。其際隊長の注意するにも拘らず一人の兵が、堤防の上に大きな姿勢をして頭を出したから忽ち腦天に敵彈が命中して、頭部に石榴の樣な大穴が開き、ドサドサッと自分等の横に轉がり落ちて來て其儘だつた。

我等はよく兵に言つた、彈は中るものだから彈を侮らずよく慣れよと、慣れて來ると彈の音によつて、方向、敵との距離、敵の兵力、敵の射擊の巧拙が自然に分つて決して慌てる事はないものだ。新らしく來た補充兵などが緒戰でやられるのは、かうした經驗がない爲だ。或る若い將校は敵との對陣戰にイラ〳〵して「俺に彈なぞ中るものか」、と民家を飛出してもの〻十分も經たずに大腿部をやられた、と野戰病院で其の將校が笑ひ乍ら話して居た。彈は中るものではないと勇氣附けるのはいゝが、其爲に彈を侮つたり不必要な姿勢をして味方の行動を暴露するやうな事があつてはならぬ。併し命令とあれば彈の層の中にも敢然と飛込むのは日本軍人の當然の心得だ。

扨て彈と言つても小銃彈もあれば迫擊砲彈もある。又野砲彈重砲彈もある。我々が直接お見舞を受けるのは小銃と迫擊だ。小銃に對しては歩兵であれば之を防ぐ方法は幾何も地形地物を利用して出來るが、迫擊俗に迫チャンには一寸困る。迫チャンの彈は頭の上を通つてゆく時は「シュッ〳〵シュッ」と音を立てゝ空中を駈ける。併し此音の耳には入る時は、既に彈は遠く後方に過ぎて行つてゐるのである。自分の近くに落ちる奴は、何等の前觸なしに「グワーン」と來る。其時は「シュッ、シュッ」の時代は過ぎて居るのである。殊に始末に惡るいのは眞上から落ちて來るので、地形地物譬へば堤や、土饅頭、岩石なども何等の役に立たぬ。一發で數人が殺傷される。併し損害の程度は全彈を喰はない限り飛散した破片による受傷だから生命を奪はれることは割合に少い。其變り一人で多い時は數十箇所も傷痕がつく。小銃の方は一發で殺されるか傷を受くるかどちらかである。自分は兩方とも妙に緣があつて兩方とも見舞を受けて其の有難味をつく〳〵味つて知つて居る。

自分が最初に部下の負傷を見たのは警備中の事で、何等悽慘な場面が展開した譯のものでもなく事態は急迫を告げてゐた譯でもなかつたが、生れて始めて彈による負傷を見て部下が可愛想とも、自分の責任だとも、血を見て嫌な氣持とも、何とも言へない胸苦しさで一杯であつた。其次に迫擊戰があつて、勇敢な部下を二名負傷さしたが、之も戰濟んで點呼をとり、二名足りなくなつた時は、淋しいやうな、可愛想なやうな氣持に襲はれたのであつた。其後某城での包圍戰では、友軍の負傷が相當出たが目が、心が、戰場の氣分に慣れた爲めか、餘り心の動搖と云ふことはなかつた。併し敵情搜索の爲め今しがた出た斥候が、燃えさかる焰の中から顔面一杯血ダラケになつて友に支へられヨロ〳〵と歸つて來るのを見ては、餘りいゝ氣持はしなかつた。

其後は朝に一城を屠り、夕に一砦を拔く疾風迅雷的な追擊戰を展開、クリークを大小數十隻の軍用民船で北上遂に目指す敵の都城近しと云ふ頃であつた。敵は我部隊の北上を知り、西方より我を攻擊して來た。敵の宣傳では、日本の敗殘兵がウロウロしてるから之を殲滅するのだと云ふ譯で數千名雲霞の如く押寄せて來た。勇敢無比なる我部隊將兵は、所在の敵を驅逐し、一部では之を包圍殲滅せんとの擧に出た。併し敵は味方の幾千倍あるか其數は分らぬ。何故ならば敵の奥行は無限だからだ。こちらは有限も有限敵が知つたらおかしい位だ。

自分は其時の戰闘で敵の小銃彈で右肩甲部の貫通銃創を受けた。彈の中つた瞬間は、後ろの兵が强く自分を引張つたかと思つたので「何するか」と奴鳴つたが兵は後に居ない。右の方に居る。右肩が馬鹿に重たいからと思つて左の手を當てゝ見たら眞赤な血が附いて來た「ハア、やられたな」と思つて麥畑に横になり近くの衛生兵を呼んで診て貰ふ。上衣を脱して見れば白いシャツは赤く染つて居る。彈は愈々烈しくなる。自分等の頭上を屑を爲して通る「スウスウスウーッ」恐らく敵のチェッコの集中を喰つて居るのだらう。併し眞横からした我が攻擊に敵は周章狼狽陣地を棄てゝ退却したのであつた。自分は負傷しても痛いとか、氣持が惡るいとかそういふ考は少しもなく任務の一端が達せられた喜悦に獨り浸り自分の負傷に多少動搖した部下を怒鳴り、攻擊前進を命じたのであつた。此の數刻は自分が戰地に來て得た最も貴重な體驗で、恐らく自分の生涯の信念になるだらうと思つて居る。思ふに一度彈丸の下を潜つた勇士は平生得られない貴いものを把握した筈だ。意識すると否とに拘らず恐らく彼等の人生觀信念に不拔の根據を與へて居ることだらう。我々の如き凡庸な者でも死生に對する見方が明白になつて來たやうだ。

其後峻險斷崖比なき山岳戰に於て迫擊に見舞はれた時は、昔の武士が打首になる時悠容迫らず靜かに生の終るを待つ、明鏡止水の心境が理解出來たやうに思ふ。死傷者續出の際、自分にも早く中ればいゝがと念ずる氣持、これは其場に居て部下を指揮する者でなければ理解出來ないと思ふ。爲す可きをなして斃れた多數の部下に殉ずる氣持、この儘健全な身體では部下に濟まぬと云ふ時、一發グワーンと迫チャンの襲來、「ヌラ〳〵」と暖かいものが身邊を通る。「ハアーやられた」これで部下に對しても言譯が出來るといふ心安さ。負傷の手當など顧る暇もない。彈はビシッー、ビシッーと飛んで來る。暫くすると敵味方の銃砲聲は次第に間歇的になつて來る。早朝からの亂射で双方共擊つ可き彈が盡きたのか、それとも擊つ可き人が斃れたのか、友軍の飛行機が一機偵察に飛んで來る。大きな聲で呼んで見度くなる。

暫くすると、敵掩蓋銃座に對して、友軍の砲擊が始る。一發「グワン」と山も崩れる音がして立派に命中して白い煙りが濛々と立つ。「アハハ、フッ飛んだなあ」と思つて居ると、頑丈な岩石で出來て居る銃座は、依然として原形の儘だ。暫くすると、「タンタンタン」と小面憎い音を立てゝ大丈夫ですよとチェッコが唸る。山岳戰は實に困難だ。殊に此地方は敵の演習地域だか手に負へぬ。併し皇軍の威力は此の峯も數日を出でずして、日章旗の翻る所となつたのである。

一帶戰地に行つて危險な場所に置かれる事は限りないものであるが、今思出してもよくもまあの時中らなかつたと云ふことが數回ある。負傷も二回位だから生命にも別條なかつたが三回も四回もになればさうもゆくまい。當番兵と二人前進中自分と當番の頭と頭との間をビュッと突き拔けて當番が思はず「來ましたッ」と叫んだ事や、自分と傳令・衛生兵と三人で土饅頭を楯にして前進部隊の狀況を見て居ると丁度三人の眞中に後方からの敵の小銃彈がグサッと飛來して四月の若葉を堀り繰り返した事や、迫擊砲彈に一尺許り堤防上を上にフワリと熱氣に持つてゆかれた事もある。

我々は彈の中る中らぬといふ樣な形而下的な事よりも一歩前進して常に必勝の信念に燃えて「戰へば必ず勝つ」の意氣と皇軍の誇とを持つて向へば何者と雖も畏れるものはないのである。

（昭十四・四・二一）

山を想ふ

今泉忠義

槍から雙六岳までは、その昔縱走路が連立する山頂を通つてゐた頃ではかれこれ一日行程だつたこともあるさうだが、近頃は中腹を切る道が出來た爲か、朝七時半頃肩の小屋を出た吾々一行は、十時頃にはもう雙六池の畔に寢そべつて、笠の小屋まで走らうといふ鋭氣を養ひながら、出來たての雙六小屋に里から登つて來てゐた村長から昔噺を聞いてゐた。これは四年ばかり前の夏のこと。そのまた二三年前にも鳥帽子に出ようとして槍からこゝまでは同じ道を通つたが、この邊から朝から少し怪しかつた雲行は愈々あぶなくなつてとう〳〵横なぐりの雨に見舞はれ、半死半生の體で三俣蓮華の小屋に辿りついたこともあつた。三俣の小屋でも焚火にあたりながら小屋番からいろ〳〵の話を聞いた。七八百米も下りて岩魚を釣る話、三俣の向うの水晶岳では昔山の名前通り水晶を掘つたなどいふ話、そんな話は問はずがたりに聞いたのだつたが、私の聞きたかつた雙六岳の名前の由來はどうしても話してくれなかつた。三俣蓮華といへば、近頃相當に讀まれたらしい「天の夕顔」の中にも出てくる山だから、記憶に新たな方々もおありなさらうと思ふ。

とにかく、そんなことを思ひ出して雙六小屋の村長さんにも寢そべりながら、もう一度どうしてこんな名前がつけられたのか聞いてみた。併し話はその都度あらぬ方に飛んで、一向要領を得なかつた。その後、緣あつて例の天明頃の旅行家橘南谿の「東西遊記」を校註する機會を得た。その「東遊記後編」の卷の三に「四五六谷」の一篇があつて、「四五六谷は越中飛驒信濃三國の間へ入り込る谷なり。富山へ落る神通川を逆上り、又其支流を尋てのぼるに、甚深遠にして、其奥を究る者なし。云々」に始つて、

近き年飛州舟津の人兩人、此谷の奥を究んとて、三日の糧を用意して、段々川にそひて入りしに、其食も乏くなりぬれば魚を釣り食うて猶數日の間尋入りしに、ふと伴ひし者の魚を釣り居る顔を見やりたるに、異形の化物なり。大に驚きて靡をかけたるに、魚を釣り居たる者も驚きてふりかへり見るに、其呼たる者の顔亦異形に變じて恐しさいはんかたなし。たがひにかくみゆるからは、此地に變こそ有るらめとて、いそぎ逃歸れり。云々。

とある。この話には少しいかがと思はれる節々があるが、とにかく私は、この四五六谷が今の所謂雙六谷に相違なく、この谿谷の源が例の雙六岳だらうと思つた。前にも一度「東遊記」は通讀したことがあつたのだが、まだその頃は雙六岳とか雙六谷とかいふ名前に親んでゐなかつたものだから、こんな書物にこんなことがあらうとは一寸氣がつかないでゐたのだ。なんにせよ、相當古くからの名前に相違ないことがわかつた。

今のガイド、山案内は昔は獵師だつたことはいふまでもない。かもしかやその他の獸類が次第に捕りつくされようとした頃それらは禁獵に遭つてしまひ本職から轉向した獵師は、陸地測量部の案内や水力電氣の設計者の案内をつとめながら、おそまきながらわが國でも湧き上つた登山熱にうかされて、結局は山案内になつてしまひ、今はもう一通りの高山植物に對する知識から登山者の應急處置の方法まで口頭試問を受けなければ、一人前の案内人にはなれない世の中になつてしまつた。入山許可證と案内人免狀とが必要なのである。三百五十年の昔、富山の城で織田方から包圍攻擊を受けた佐々成政が、ある夜潛かに重圍を逃れて立山のざら〳〵越えから黑部の上流を渡り針ノ木峠を越えて雪の上を走りつづけて信州は松本に達した、―一寸嵩はささやかだが、私もこれを奈翁のアルプス越えに比することが出來さうに思ふ。とにかく時代が奈翁よりも更に數百年前なのだから―その時の案内役をつとめたのも獵師だつた。わが國の高山の拓き初めは、何と言つても修驗道の行者と獵師とによつて行はれたのである。

かうした、恐らくは獵師たちが心覺えに仲間のうちで謂はば假稱した名前が、ほんたうにその山の名となつて、しまひには參謀本部の地圖にまで載せられるやうになつたのが相當の數に上るだらうと思ふ。三俣蓮華の邊の山ならば、例へば野口五郎岳にせよ、黑部五郎岳にせよ、人の名前に似たのは殊にそんな風にして名づけられたのではあるまいかなどと要らぬ穿鑿がしたくなる。

ところで四五六谷はどうだらうか。普通の行き方からすれば、どうも山の方が元らしいが、何とか人の名前か何かで、それが獵師だつたりしたら、思ふ壺に這入るのだがなあ、などと愈々想像を逞しうする。

私は、初夏の山は一向小案内だ。職業柄出かけるにも出かけられないからでもあらう。まあ愈々近づいて來る夏山の腹案でも練りながら、そして地圖でも讀みたがら、今までに苦しみ苦しみして通つたところを、もう一度通つてみたいなぁなどと考へてゐる方が、どうもよささうだ。（一五・四・二七）

職場だより

YKM生

生産力擴充の第一素材として石炭の等差級數的な增産指令が九州、北海道、常磐の諸炭田に强行せられたと同時に炭鑛地帶は黑ダイヤを中心として激しく沸騰する。森が川が山が村々を廻り、町を圍むで靜かに眠つてゐるその地下では夜となく晝となく怪物の如くに炭鑛が息吹いてゐる。我々も晝もなく夜もなく怪物の胎内を馳け廻らねばならない。午前五時半のサイレンに叩き起されて、午前六時半の人車(ケーブルカー)に間に合ふよう岡をかけ登つて斜坑の坑口まで走りつける。運入りの一番方の坑夫達が列をつくつて就業證を着到(ちやくたう)(關所)に提出してゐる。坑口より三千尺、海拔マイナス七百尺の水平坑まで降されると氣壓の加減か一時耳が馬鹿になる。この地底の怪物の胎内を四方八方に坑道が這ひ廻り、そしてその坑道の本線には炭車運搬用の電車が走り、切羽(きりは)(作業現場)の隅々まで通氣管、壓搾空氣管、電話線、電線、レールその他種々の鐵管が血管の如く神經脈の如くに張り廻らされてゐる。

午前中切羽の掘進、採炭並びに保坑狀態を現場係員と見て歩く。地下水に濕めた坑道は我々の足をさらつて嫌といふ程レールに叩きつける。それで足下に注意しつゝ降つて行かねばならぬ。通氣は電車坑道より一歩入つただけで地熱と溜むでムッとする程惡く、その上一種の臭氣を帶びて肌着を着ずたゞの作業服一枚をグッショリ汗で濡らしてしまふ。汗が眼に流れ入り稀薄な通氣に息苦しく、低い坑道を中腰の姿勢で歩く爲め身體が忽ちの間に疲勞する。注意力が散漫になり、ひどい空腹と眠氣に襲はれ始める。途端にグワンと頭上の坑木に一撃される。

すごい落盤で坑道が埋まつてしまつてゐる其の闇を通してポッと電燈の光と、コールピック(空氣鎚)のダダダダといふ音が漏れて來る。光ほど懷しいものはない。近道の爲めこの落盤した岩の隙間を這つて切羽に行く。炭塵とハッパの殘臭が一面に籠つてゐる。身に何も纏めぬ裸一貫の坑夫が身に着けてゐるものは汗と炭塵だけである。

彼等は眼だけを異樣に光らせてゐる。五貫目もあるピックを炭層に突き込み、石炭を拂つて行く。我々がしようものなら體がグラグラと石炭よりも先に崩れてしまふんだ。こうした切羽で働く先山(さきやま)達は、一樣に無表情だ。たしかに切羽では表情と言つたものは不必要だし、あり得ない。激しい勞働が表情を奪ひ去り、又一寸先の生命のほども知れぬ條件の下で一體なんの表情があらう。

肉體といふ秤に生命と請負賃銀とが兩極に懸けられて危なく上下してゐる。勞働の激しさの故に坑夫達は機械に縛りつけられてゐない代りにそれだけ嚴しく賃銀に縛りつけられてゐる。正午近く坑内事務所に戻り二番方の入坑を待つ。二時半頃二番方入坑。「上層炭票二から十、五把、先山番號一九二」炭票表に記入する。東北辯が事務所を埋める。妙な柄の手拭を首に卷いた先山が係員に揶揄されてゐる。「何だつべ、その手拭は」「純綿でハ」「坑内ん中サおつかあと一緒でよかつべ」「んだつべ」と素朴な微笑をたゝへて女房の浴衣の切れ端で作つた手拭が坑道に消へて行く。

今日は通し番であるので四時の人車で夕食に地上(おか)に上る。夕陽に映ゆる山々の綠と菜の花の色の美しさ、大氣の清々しさは限り無く爽快である。午後五時半の人車で又入坑する。賃銀計算をしてゐる机の上をでつぷり肥へた南京虫が這つて行く。四圓六十七錢、二圓十一錢、細かい賃銀計算が晝の疲れとで一層眼を重くする。午前〇時の二番方の出坑を送つて早速椅子を並べて横になるものの、南京虫、風、炭車運搬の騷音、電話は仲々眠らせようとせぬ。六時入坑の一番方の事務を濟ますと匆々と地上に出る。

朝燒に空は美しく彩られ、山の窪に見える小炭坑(こすみ)の茅屋から白い煙が長く立ちのぼつてゐる。小炭坑にも朝が訪ねて來た。今迄拋り出されてゐた狸穴の如き小炭坑が立並ぶ茅屋の煙の如く細々としかもせはしくあちこちに時局で蘇り、全くのボタ炭(ぼたすみ)の闇値と高賃銀とで大炭坑(おほすみ)の脚もとに吸ひ着いて行く。たしかに此等多數の小炭鑛が南京虫の如く脚下に吸ひ着きもし、一方上からは增産指令と統制の壓力に抑へつけられてゐるとは云へ大炭鑛はその巨大な資本の故に微動だにしない。

二本の竪坑の櫓は朝日をまもとに受けて空高く聳え立ち、傍らの選炭場ではシェキングスクリン、クラッシャー等が金屬的な咀嚼音を掘き立てて山を震してゐる。巨大なこの風景！　黑ダイヤを腹一杯につめこむだ怪物、二本の角を空に突き立て、巖丈な齒を持つた怪物を考へながら岡を下りて行く。

(十五・五・五)

時評

音樂雜話

立教大學音樂部
遠藤明

音樂の趣味と云ふものが時代・世代に依つて新舊に分れると言ふならば、それは當然であらうし、相容れぬままで、とにかく趣味そのものが存在するに違ひないと思はれる。だが、かう云ふ分れ方でなく、音樂の好きな者と音樂に緣のない者とに分れて行くのであれば、それは明に衰退の徵である。日本の傳統音樂が今衰へて行く時に、未だ西洋音樂が十分に咀嚼されてゐない時に、新しく生れたものは何であるか？それは在來の樂器による新作曲と樣々な點で新しい要素を持に到つた流行歌である。我々は殘念ながら今日の日本の音樂的水準を此處に置かなければならない運命に置かれたのである。これは極めて低い意味のリアリズムが濃厚に殘存して、別に批判もされて居ない點や樂器の性質から寢雜燒大な作曲に適さない點など、悲觀的材料が澤山あるのである。この拙文を讀んで居る諸君よ。諸君は極めて少數の選ばれた高級の音樂ファンであると思ふ、それが諸君の光榮であると同時に不幸の原因にもなつて居ることを決して忘れてはならないと思ふ。若し諸君が珍らしい存在でもなく、現に日本の水準を代表してゐるとすれば今日の樣な非常の時局でも、士氣を鼓舞するためにも、慰安を確保する爲にも缺くべからざる樂器の製造が禁止されたり、音樂會が贅澤視されたりする心配は無かつたであらう。特權者には獨自の誇りを有すると同時に免れ難い壓迫があるのである、又若しさうであつたならば情ない音樂の放送に苦しむ心配もなく、たとへ極端な統制が行はれても先づ委を消すのは諸君の輕蔑する低俗なる音樂であらう、として更に考へるならば、高貴な音樂の夢を高揚させる以前に日本の現實の經濟生活にまで思ひを致さなければならないのである。

藝術が哲學を、哲學が藝術をそこに科學が加はつて、我々は到るところに此の相補關係の中に缺陷を見出すのである、それと社會生活、又政治政策との結び付きに到つては更に嘆きが增すのである。此處には互に貧困を昂じさせる樣な關係でなく、むしろ互に獨自の經營に依つて自分を高めて行く必要と國民の水準を下から持ち上げてゆく啓蒙の必要とが同時に存するのである、日本の專門家にはこの二重の重責を課せられてゐる。そして彼等はこれで結構なりと云ふ顰に對して鞭を振りかざさざるを得ない辛い狀態に置かれて居る。そしてその樣な努力を支へ、彼等に劣らず、大なる役割を演じなければならないのは愛好者達である、熱烈な關心の無いところに革新も改善もない。

現在、今音樂文化の向上に必要なるものは「愛情の持主」の動きである。これが無ければ皆んで我々は絕望のみを發見しなければならない。諸君は棚になることなく、堅固な橋となることを望む次第である。

(十五・四・二九)

鷹の輪

校風の問題

投書規定
八百字以内・
毎月廿日締切
科學年氏名明記の事・紙上匿名差支なし

◇…高商から學部へ編入して來た僕が最初に氣持よく感じたのは、教授と學生の間の極めて親密なることであつた。豫科から居る人達には平素餘り教授に狎れすぎて居るから、これが改まつて意識されないかも知れないが、そのやうな雰圍氣の中に自分もひたることが出來るかと僕は其の幸福さに異常なる感激を覺えさせられた程であつた。これこそ立教が誇るに足る校風だと叫びたいものである。

◇…次には、學生がいゝ意味に於てゆとりある生活態度をもつて學問にいそしんで居ることである。一般に專門學校に於ては學生々活は短かく且つ優秀なる成績をとるか否かゞ、直ちに彼等の就職に影響するために、こせこせした實利主義の生活を送らねばならない。それ故かういふのびゝ〳〵した愉しい學生々活は過し得ないのである。

◇…以上は好感を抱かせられた方面であるが、反對に最も遺憾に思つたのは、極く少數の學生を除いては立教の學生は餘りに勉强をしない、と云ふことである。

◇…高商の學生と比較すると軍配は殘念ながら彼等の側にあげざるを得ない。若しこの堂々たる教授團を迎ひ得たならば、彼等はどのやうに感激して勉强をするであらうかとさへ思ふ。

◇…スポーツもいゝ、小說も映畫も結構である。然しそれらにもまして、本來の大學の使命たる學問に於ても、他の大學と比較して恥かしからぬ水準に高めたいものである。

◇…今日に於ては、立教の學生の實的水準は遺憾ながら一流大學に比すれば自他ともに遜色を見出さぬ譯にはゆかない。愛する大學のため、また我々の自身の爲に優秀なる立教を實現させねばならない。(河田英一寄)

情熱と無思想

——評「車齒」・「標浮」——

齋藤徹

海洋と云ふ誇りの殼に、とぢこもつてゐた國が東洋の全面へと躍進して行く、この大いなる歷史的飛躍を體驗して國内には、凡らゆる狹少なるものが敬遠され自から新たなる躍動するものが各方面で要望されて來た。

かゝる祖國の發展的轉換を、直接に經驗せしめられた藝術家が、この時代の派々たる息吹きに答えんと、更に其の要望を滿さんと、それと同時に、偉大なる創造に邁進する祖國の步調に一致せんとして、生み出された作品、それは演劇界に於いて「浮標」と「齒車」に見る事が出來る。

「浮標」は、藝術家の、この時代に於ける煩悶と、それに對する信念を說いてゐる。

「齒車」には、全體と個々との相剋を、解決したつもりの思想が、もられてある。

そして共に、この事變と云ふ大試鍊を受けつゝある時代の激濤に打擊を受けた、一つは家庭一つは工場を中心としてゐる。

だが時代と取組んだ作者の熱情が如何なる結果を、もたらしたか、皮相で淺薄な公式化された觀念で、圖式の如く固定された性格と、理論的に低級な自說で、この現代の煩悶と問題を解決せんとした事は、作者自身の思想の淺薄と世界觀の狹少を實證したにすぎず、矛盾なき信念を把握する事の不可能であつた彼等は、いきほひ文章にのみ依存しすぎ、いたずらに精動の標語的科白の羅列により、一切を糊塗し、決して更に內面に掘り下げやうとせず、現代の苦悶を解剖し、問題の核心を突く事はしやうとしてゐない、否しやうとする事も出來得なかつたのかも知れない。

全體の爲に個々の犧牲を說く「齒車」は實に出たらめな劇である。それには如何に個の犧牲が尊いか、それに依つて全體の受ける可き深遠なる福利、何んら其の、最も重要點の表現も描寫も無く、むしろ戲曲全體に於いて、人格を無視した人間の機械化を强行する、資本主義の典型的人物の喜劇化された專務が口に全體主義をして個の犧牲を執拗に强張してゐる。

劇中で作者が自己の思想を、觀客に首肯せしめる事なく强要する、矛盾に滿ちた信念を無理强ひに觀客に浴びせかける、こんな事が演劇の使命であらうか、一つの感動を觀客に與え、それが彼等の心に一つの信念を萌芽せしめるか、自發的に作者の思想に追從せしめる力を劇的効果として內在す可きである。然るに「齒車」は强烈なる信念より生れ來つた思想を持たず、單に時局に迎合せんが爲に、凡らゆる矛盾誤謬を妥當であるかの如く、表現する國策劇なるものゝ一つでしかなかつた。

「浮標」は現實の波濤に翻弄される現代の生活の一斷面を描いてゐる、而も三好十郎は內村直也に數倍する巧妙なる戲曲作法を以て一層確固たる信念のもとに、情熱を注いてゐるが、彼の信念を表現す可く、彼の世界觀が思考力が餘りにも淺薄であつた、浮標の登場人物の思想の出たらめが之を實證してゐる。

結論するに「浮標」は戲曲としての技巧的上手さが、一應最もらしく、頷かせるが、單なる愛慾劇であり、丸山定夫の熱演に理論抜きで滿足するだけの物であつた。

「齒車」は藝術の假面をかぶつた低俗劇であり、宛かも確たる信念を內包するかの如く愚劣なる思想で擬裝された、戲曲と呼ぶ可からざる稚劣なものでありかゝる原作を二千六百年の爲の祝祭劇として上演し自己滿足に浸つてゐる文學座は、餘りにも文學趣味に惑溺してゐはしないだらうか、國家が偉大なる歷史的發展を遂行する時、正に今日こそ最も眞摯なる藝術が渴望される時であり、文化の高揚す可き時である。然るに、この記念す可き公演が、愚作と無責任極まる文學座の脚本選定、岸田國士の演出に、名優の眞劍な努力を外に、單なる國策の喧傳劇として吾が國文化史の上に、一つの汚點を止めた事は、內村直也文學座に期待する事大なりしが故に、又失望も大なる物であつた。

やうするに時代に即應せんとする作者の强烈なる情熱のみでは、現代に意義あらしめる今日の苦悶を解決し得る、更に躍進過程にある國家の要求を滿す可き作品は、生れ出でざる事、根幹となる思想を狹少なる世界觀の內に育成して來た藝術家のみの努力では、それが不可能である事を、之等二公演は暗示し、演劇界に於いても轉換期の來らざる可からざる事を、物語つてゐた。

筆者紹介

△職場だより・YKM生　學報前總務▽音樂雜話・遠藤明君、立大音樂部員▽情熱と無思想・齋藤徹君、立教劇研會員▽投書欄・河田英一君、學二▽負傷後日物語・和田正俊氏、文學部講師▽山を想ふ・今泉忠義氏文學部講師

皇歴を祝し征空二千六百キロ

航研　松本君壯行

東西兩朝日新聞社及帝國飛行協會主催の紀元二千六百年奉祝日本學生航空聯盟創立十周年記念學生鳥人、國土二千六百粁日本一周飛行は、四月二十八日聖地宮崎縣都城飛行場出發、第一日新潟着、第二日仙臺着、第三日羽田着、第四日ゴールの大阪着といふコースを、本學航空研究會の松本良三飛行士(學三)は選ばれて甲班(關東側)六名の中に入り、九五式一型に搭乘練達の操縱にて潑剌壯途に上つた。

松本良三君は日本學生航空聯盟會員としてすでに七〇時間の練習記錄を持つ優秀な學生鳥人で二等飛行士の技術を持つ立教航研の創立者である。出發前練習飛行に餘念の無い同君を羽田飛行場に訪ねると壯快な爆音を立てゝ九五式一型の黃塗の練習機が彼方の上空から滑走し來たり學聯格納庫前でぴたりと止り日に焼けた同君が機上に出て手を振り、飛行眼鏡を外して歩いて來る。同君を掴へて奉祝日本一周飛行の抱負を聞く。

松本君は語る「今回の一周飛行は二千六百年を記念する意味もありますが、今の學生航空聯盟の學生達が如何に戰時下の日本に重要な位置を持ち、その必要が叫ばれてゐるか、そして又如何に學生達の技術が練達されて居るかと云ふ事を日本中の皆様に認識して欲しい事なのであります。使用飛行機は航空〇〇學校練習機の此の單發の黃塗の奴なのですが、一日七時間から九時間位づゝ飛行しますので今度の記念航空も仲々骨の折れる事です。御承知の通り複座の此の機ではメインが方向指示しサヴが操縱桿を握るので少しでも眼を離す事が出來ません。

大學の皆様に申し上げる様な特別な抱負は有りませんが、只立教大學の學生としての矜持を保ち、その任務の遂行に萬全を期する次第です」と。

〔寫眞は松本君〕

齋藤中尉無言の凱旋

齋藤　質氏(ア式蹴球部先輩)

陸軍歩兵中尉齋藤質氏は一昨年應召、中支方面の戰線に活躍してゐたが、昨年十二月二十三日中支安徽省杉木嶺の戰闘で奮戰、遂に壯烈なる戰死を遂げられ四月二十一日午前九時十五分東京驛着の列車で無言の凱旋をされた、驛ホームには親類の方々及び當部員並びに先輩多數出迎ふ。

同氏は昭和十一年三月經濟學部を卒業、當部マネジヤーとして學校内外に、その信望厚かつた。

〔寫眞は齋藤中尉〕

各運動部報告

陸上競技部

三大學(立・中・法)第二回定期戰　五月十二日　於中大トラック

關東I・C五月二十五、六日於神宮對同志社定期戰(期日未定)。

豫科大會(期日未定)

新人

森　武茂(豐中中)　走巾跳

土田洋一(高輪商)　三段跳

横山賢一(高崎商)　長距離

中西康郎(和歌山中)　砲丸投

佐藤一繁(本郷中)　中距離

短距離

ア式蹴球部

四月二十七日より全日本選手權大會が開催さる。

關東大學豫科リーグ戰五月上旬、立早定期戰　五月上旬

新人

多田　利公(淺野綜合中)

岩沼勝次郎(東北學院中)

柳原　慎郎(大阪桃山中)

立花　英治(北海中)

平山　周(府立八中)

ラグビー部

二軍試合豫定日

對明大二軍　五月二日　於石神井

對早大二軍　五月十一日　於東伏見

對慶大二軍　五月十八日　於石神井

對法大二軍　五月二十五日　於法政

新人

中村　治郎(吳二中)

岸川　正秋(福岡商)

佐々木重一(函館商)

佐々木麗吉(大連一中)

森岡英之輔(大連一中)

三好　慎吾(京城中)

長谷川　達(鹿兒島中)

星明　良齊(順天中)

殿村　明(京都三中)

(　　)

萬生　(臺北商)

加藤　勇(府立一商)

水泳部

五月下旬關東學生水球リーグ戰

六月十六日立、早、明三大學大會

新人

白山　勝三(灘中)短距離

大野　仁(岐阜商)自由形

野間野富治(都津商)平泳

齋藤　武彦(立教中)自由形

福本　昇治(大連二中)自由形

庭球部

五月十八日より關東庭球選手權大會、於早、帝、明コート(二週間)

新人

片山　幸二(天王寺中)

油谷　孝(豐中中)

江島　泰(小田原中)

增木　直也(伊丹中)

野田　哲彦(立教中)

佐藤　正和(函館中)

平石　鐵生(佐世保中)

樋口　浩洋(高津中)

田中　誠(府立八中)

林　薫(京華中)

拳闘部

五月四、五日　東亞大會豫戰　於神宮

五月二十三日　六大學戰　於神宮

六月二日　對中央大學

六月八日　東亞大會

六月三十日　六大學戰　對農大

新人

日比野進一(昭和第一商)

諸橋　幸彦(國史館中)

金　德　鄕(中央中)

益田　幸德(東京家畜園藝)

武藤　肇(京北中)

劍道部

五月下旬　豫科對學習院定期戰　於學習院

六月上旬　全日本學生劍道大會　於櫻原神宮

六月中旬　東京學生大會　於早大道場

新人

城　義正(西南學院)　二段

木村　正明(北海中)　二段

中野　市衛(下妻中)　二段

早川　泰夫(日大二中)　二段

奈良　正(立教中)　初段

富田　孝(仙臺二中)　初段

高山　四郎(新庄中)　初段

玉置　陽二(木木中)

中岡美木雄(市立二中)　初段

大友芳三郎(府立一商)　初段

外山　進(立教中)　初段

中道　弘(姫路中)　初段

馬術部

五月四日、五日　東北學生馬術大會

五月十一日　關東代表豫戰　於陸軍士官學校

五月十九日　對同志社定期戰　於駒場近輔

五月二十六日　行軍實習會

六月二日、九日　四大學戰　於座間

六月下旬　八大學純馬術大會

六月下旬　對法政定期戰

卓球部

春期リーグ戰日割

五月四日　對慶大　午後三時

五月五日　對大正　午後一時

五月十一日　對帝大　午後五時

五月十八日　對早大　午後三時

五月十九日　對東商　午後一時

以上神田YWCA體育館

五月二十六日全關東學生選手權ダブルス大會　賴、船木出場

六月二日　全關東選手權シングルス大會　以上於國民體育館

六月七、八、九三日間東亞大會賴代表として出場於共立講堂

六月十二、十三、十四三日間汎太平洋大會　賴、船木、日本代表として出場於共立講堂

新部員

首藤、柳田(學一)、中川、增田阿部、渡邊(以上豫一)

スケート部

六月十二日　新人對O・Bホッケー

新人練習

五月一日より六月十五日までホッケー新人

勢　重夫(大連一中)

中村　進一(奉天商)

手塚和夫(大連二中)

福島　敬(海城中)

折井俊男(善隣商)

朴　贊益(京畿中)

黑崎文郎(開成中)

スピード新人

長尾英男(旅順中)

安龍　熙(新義州東中)

臺灣行脚印象記

卓球部　賴天頤

日本卓球協會の派遣により三月十六日神戸出航の蓬萊丸に乘船、靜かな航海四日目にて基隆に入港した出帆の時は雪がちらほら降つて居たのに四邊は青々として、南國臺灣の感が深い、臺灣はも早や春暖の氣候であつた。世界第三位の雨量と云はれる話に違はず、着臺の日は雨天だつた。

本校校友會の諸氏並に體育協會役員の方々に迎へられて臺北帝大醫學部の杜教授宅に落着く夜七時半より小林臺灣總督の官邸で今君(早大)と模範試合を行つた。スポーツ人で總督官邸に招かれたのは臺灣の凡ゆるスポーツ人として初めてであることを聞き眞實に身にあまる光榮であり、卓球をやつた甲斐があつた事をつくづく感じた、試合後のティーパーティーに人つてから總督閣下始め各高官より色々の質問をうけた中にも「卓球とはあれ程過激なものとは知らなかつた」等と感心して居られた方も有つた。大體臺灣ではスポーツの中で卓球が最も盛んである所謂ピンポン屋が街の處々に見受けられ、あらゆる階級の人々がピンポンを樂しんで居た。話に聞くと卓球愛好者は約三萬餘人も居ると聞かされ驚いた。戸外スポーツは暑い爲盛んでないとのことである。二十日帝大醫學部ホールで一般公開の初練習を行つたが超滿員の盛況であつた。廿一日金瓜石釘山、二十二日には基隆で模範試合を行ひ講演をした。二十三、四兩日は臺北市公會堂で臺灣全學生及社會人と對戰したが、約千名程の入場者が有つたのには又々驚かされた

當日は立、早校友會からわざ〳〵我々に花輪を送つて下さつたことは感謝に堪えない、その後新竹臺中、嘉義、臺南、岡山屏東、高雄の各地に轉戰し更にガランビ燈臺(日本最南端)を見學し、四重溪温泉で疲れを流し南部各地でのコーチを一通り完了し四月四日臺北に戻つた。我々の試合講演は約八十回に及んだが、これにより卓球が眞のスポーツであることを認識した様である殊に卓球を今迄認めて居なかつた臺灣體育協會は卓球を理解し、認識して體協に卓球部を新設した、以上のごとき實を結んだことも臺灣卓球界の至寶臺北帝大工藤、杜兩教授の苦心と犧牲的御盡力並に立、早校友會諸氏の後援の賜と信じて居る次第である。

次に卓球以外のことで我々が驚いた事、並に印象深かつたこと等お話する。年に二度米の收獲が有ることを誇りとして居る臺灣も今年は米に不足して居るには驚いた、其理由は餘り輸出し過ぎた爲とのことである。四重溪ホテルに泊つた時など米と甘藷とが交ぢつて出て來たことも有つた、一日に三回食べればならぬ米が一日一回は代用食しなければならぬこの點内地など有難いものだと感じた。ホテルの人に聞くと一日一人に付き一合五勺と制限されて居るとのことである。學生も「ベントウ」は皆パン、バナナ、支那ソバ等の代用食ださうで私も代用食を食つて初めて米の有難味が解つた。又ガランビ見學の際一杯の水を頂くにも頭を下げ苦心して飲んだ。こゝは水が無い所で水を用ひるには、早朝より下山しなければならぬと聞かされ驚いた。屏東は臺灣で最も暑い地方であるが今回のコーチ旅行で最も印象深い處であることは四月と云ふに初夏の氣候のごとくバナナ、パパイヤ、椰子等が青々として、南國の氣分充分であつた、殊に卓球關係者の方迄に案内されて蕃社へ行き彼等と一諸に記念寫眞を撮したことは最も印象深い、屏東から汽車で潮州迄行つてそこからガランビ迄行くには約五時間程バスによらねばならない、當日は卓球關係者が多忙なので案内なく今君と二人で行つた。

途中見る物全て珍物ばかりである、この地の生蕃は所謂高砂族でなか〳〵の教育があり日本語をペラ〳〵と喋られたのにはまどつた。彼等の體格は實に素晴しく黑、、、體美と云つたところだ。この外色々面白い事を體驗したが紙面がないのでこれで止めておくが、最後に小生のこの遠征を終つて最も感じたことは自分の體力を自重せねばな海外遠征を行ふ場合には健全なる肉體であらねばならぬ事を痛感した。今回の遠征にはお蔭で健全に約一ケ月コーチして廻れたことは幸であつた。

以上で私の臺灣行脚のお話は終りとしやう。

臺灣校友會大橋氏始め其他先輩諸氏並に學友會各部皆様より賜りました御後援を厚く感謝の意を表し、私の臺灣印象記の筆をおきます。

春の史學科だより

本學文學部史學科内に設けられてある史學會はその定期刊行物「史苑」の麗名は餘りに有名であるが五月九日の例會を以て華々しく新學期の開幕を行ひ小林秀雄科長の講習を皮切りに、數々の研究發表を行ふ事となつた。史學科に於ける各教授、史學科の關係者及び學生諸君の參加を得て常に三、四十人に及ぶ盛會ぶりで當日の例會も多樣な内容を持つ科長の講演の事としてその題材も期待を持つて迎へられて居る。

追つて五月二十四日は第二回例會として飛鳥朝文化の研究者として著名な會津八一博士に依頼して法隆寺の建築を主題とせる招聘講演會が行はれる事と決定して居る。

史學會が立教大學を代表して對外的にその權威を誇る同會發行の「史苑」第十三卷第三號は四月三十日附を以て發行されその豊富な研究の片鱗を示して居る。内容として

ランケ派の政治史家モンゼン　小林秀雄
歴史的現實の問題　田代秀穂
服飾上より見たる近世風俗　遠藤　武

等の優秀な論文を盛つて居る。

史學科の研究室に於て未だ學生諸君に知られて居ない憾みのあるのは考古學史料室の存在とその秘されたる研究史料の優秀性であらう。これは東大講師であつた駒井知愛教授の苦心による蒐集の成果が所せまきまでに所藏され、同教授が多年に亘り滿洲北支への研究旅行に於いて得られたる漢、唐代の遺物はこの程、殆ど整理が完成し五月中旬頃より廣く學内に公開し學生諸君の研究の一助にもと企てられて居る。次いで同教授を主として史學科諸氏の參加の下に同採集品の目錄を編纂し、解説と共に近く出版の豫定との事である。

對外的な史學會の「史苑」に對して專らその論旨を對内的學内の啓發につとめて居る史學會機關誌「史學同好會々報」は五月一日高木正七追悼號として特輯第八卷第一號を發行した。高木氏は去る二月二十三日死亡せる史學會の優秀メムバーとして著名であり、且つての立教大學文化祭の重要なる主班者の一員であつた。

同好會は柴田教授を會長に仰ぎ史學科學生を會員とせるもので史學講演會、考古學研究、見學旅行などの事業を行ひ、昨年十一月二十三日に行つた川崎市の溝口の貝塚への研究旅行は、駒井教授の指導の下に全員五十名の參加を見、盛大に且つ優秀な收獲を得て、數々の記錄を殘した。

新學期も五月を期して霞ヶ浦近郊の遺塚發見の研究旅行が豫定されて居る。

英米文學會近く春の研究號發刊

英米文學研究の大學として廣く注視され、その權威を認められて居る立教大學英文學會は新學年を迎へて更に活躍の一路に向ひつゝあり舊東寮文學部研究室内にアメリカ文化研究會を設け、定期刊行物として著名な「英米文學」は既に十二卷を數ふるに至り、その確實性を遺憾なく發揮して居る。

同學會は顧問に小林秀雄教授ダグラス・オヴアトン氏を迎へ、會長高垣松雄教授を圍み富田彬教授、古谷郁郎氏、中島幸雄氏、鋼島能正氏、武藤重勝氏の有數の會員を中心に新に歸朝し豫科で教鞭を取る細入勝本郎教授を加へ組織されるもので、之ら研究の成果は第一回例會として四月廿三日午後五時より文學部研究室にて開催發表された。富田教授の「エマスンとアメリカ精神」に就いての講演が行はれたが、次回は五月中旬、細入氏が同じ「エマスン」に就いての研究發表を行はれる筈である。

尚英米文學會は五月初旬、アメリカ文化研究號として「英米文學」第十二卷を特輯發行する事となつた。その内容は

アメリカ精神　(D・オヴアトン)
アメリカ文學の理解と愛用　(高垣松雄)
最近アメリカ文化　(細入勝太郎)
アメリカンビユリタニズムと新人本主義　(古谷郁郎)
北村透谷とエスマン(富田彬)
オウンリ・イエスタデイ(紹介)　(鋼島能正)
ユージン・オニイル論(飜譯)　(杉本喬)
日本に於けるアメリカ文學研究文献一覽表　(中島幸雄編)

☆……

學報欄

昨年十月　學部三年(當時)の中島一男先輩を總務として新に成立を見た立教學院學報編輯所は遠山郁三學長の直屬機關とし小山榮三教授の指導の下に本年更にその活動を續行して居る大立教大學の學生文化の啓發機關であり　その目的として居る所は新開紙面に見受られる立教學生の親睦と啓發とにある。

斯る重大任務の達成のため編輯所員たる學生はその學業の大半を活用し學報發行の事業に邁進して居るのであるから希くば學生諸君の絶大なる援助を仰がれん事を編輯員として切望して居る。勿論々の業揣しと雖ども揮身の努力を捻出して斯道斯學の本快に近づかん事を切願して居るものである。

本年三月我々は優秀なる幹部諸兄を學窓から送り新たな編成を以て學報の發行に立直らざるべからざるに至つた。我々の行手には多難の路が存在して居る事は勿論である。

希くば再三再四伏して學内諸先生、學生諸君、學外にある同窓先輩諸氏の御鞭達　御願ひする次第である。時下國家多事の折から益々諸家の御活躍を祈りその報導の一端を盡したい覺悟である。

☆

今回大學當局の御好意により確定せる豫算のもとに學報の定期發行を見るに至り、その發送向も略々大學同窓會、學生、父兄、大學關係者立教學院關係者等の全部に送付される豫定となつて遠く海外にありて戰える先輩諸氏へも配屬將校室と聯絡を取り大學のニュースをお傳へする手管となつて居る。

☆

編輯事務の複雜性は今更申し上げるまでもなく知る人ぞ知るで仲々大變なものであるが、特にこれからの編輯所の中堅となる學一、及び豫科の學生生徒諸君の入所を切望してやまない。參加希望の諸君は直接、校友會館二階の編輯室まで來室され編輯委員の者に相談されたい。兎に角至急多くの人材を必要として居る現情である。

我々は學報編輯室に毎日正午在室、申込を持つて居る。

英語會

東日主催全國大學高專雄辯大會　(五月下旬)
青山學院主催全國高專雄辯大會　(五月中旬)
四大學(立・早・慶・商)英語劇大會　(六月十日頃)
校内總長夫人カップ爭奪大會　(六月下旬)
同志社主催全國高專雄辯大會　(六月下旬)

音樂部

春のスケジュール
一、第三十一回定期演奏會　五月中旬　於青山青年會館
序曲「コリオラン」　ベートーヴェン
舞踊組曲　グレートリー
交響曲「第五番」　シューベルト
指揮者新譽　田中秀雄氏
二、校内演奏會
組曲「アルヽの女」　ビゼー
其　他
指揮者　松枝孝治

ワンダーフォーゲル部

五月初旬　丹澤山塊四十八瀬右股遡行・丹澤ドウカク澤遡行
丹澤山塊縱走
五月中旬　谷川ケ岳登行
五月下旬　三ツ峠登行、妙義山登行
六月初旬　赤城山方面ヨリ雲龍峡大鹿落ヲ偵察行
六月十三日　當部主催輕音樂ノ夕
六月下旬　赤城山ハイキング

國防研究會

五月七日　會議室に於て和田教授の推戴式を擧行。
五月八日　海軍軍事普及會局中佐殿の講演會並に映畫會を開催。
演題　海軍々備擴張情況
映畫　海軍作戰記錄第九輯
海援隊(日活作品)
五月十八日　霞ヶ浦航空隊見學
五月廿七日　日本海々戰紀念學生國防の夕を開催。
講演　海軍中將飯田閣下　其他
映畫　海軍爆撃隊(東寶)封切
今學期研究會題目
「近代戰の特質たる總力戰に關する概念の把握」

自動車部

近代科學戰上益々其の重要性を認識されて來た自動車の研究機關たる自動車部は聖戰第四年を迎へて愈々隆盛に赴きつゝある。

自動車部本年度最大の計畫は滿洲遠征である。關東軍後援の下に滿洲を軍部より提供されるトラックに分乘して走破するもので、今から全部員張切つてゐる。

それから六月中旬には同志社高商との自動車競技會が行はれる。これは例年行はれてゐた東京、大阪間オートバイ・レースに代るものであつて、部員は必勝を期して毎日猛練習を續けてゐる。自動車部はこの外毎年軍部の行ふ演習、記念日等の行事には必ず參加して、機械化國防にいさゝかでも協力する樣努力してゐる。

海外事情研究會

獨の電擊作戰は鉾を轉じて蘭・白の中立侵犯へ、第二次歐洲戰は遂に爆發した。今や世界は戰鬪國と中立國とを問はず、異常な國際不安に捲き込まれてゐる。舞臺は再び一九一七年に引き戻されたかの感がある。

此の異常時局に際し「海研」の重點主義研究法は昨年に引續き對象を「アメリカ」一本槍で進むことに決つた。就中、昨年、米國憲法を中心としたアメリカ外交の全面的檢討の後を受けて、本年は彼の國の戰時立法たる中立法を中心とした實際問題の檢討に立ち向ふスケヂュールである。

尚ほ本年は右の研究會(學部)と併行に充實せる豫科陣を擁して新しい試みたる豫科研究會を開設し、國際問題に關する豫科生諸君の啓蒙に邁進する豫定で一方日本國際協會の立大支部として各大學間に互し、最近着々とその成果を修めつゝあり、この方面に於ける「立教」の躍進を企圖してゐる。

映畫研究會

映畫研究會では、豫科生だけの編輯により機關誌「映研P・C」の發行をつゞけてゐるが、今學期のはじめに出した新先生歡迎號は豫想以上の反響があつたやうである。その紙上で、詳細に「映研」の内容を示してゐるからであらうか、今年度の新入會員は卅五名の多きに達したさうである。

「會員がこんなにふえたのに狹い會室で、しかも劇研と同居してゐるんだから、何かにつけて不便だよ」と、映研の委員の一人が記者につぶやいてゐた。

柔道部

中島一雄(三段)山梨縣韮崎中學
中崎謹彌(二段)中央商業
西條睦夫(二段)新潟高田中學
三宅善三郎(二段)廣島縣立第三中
京谷一彦(初段)立正中學
奥村哲治(初段)立教中學

合宿だより

庭球部

我が學生庭球界の泰のビッグゲームであるリーグ戰無しの一年を經て、今年こそリーグ戰復活との呼び聲に我が庭球部は、今年こそはと必勝を期して三月下旬より吾等の青星寮に合宿練習を開始した。特に事情あるもの二、三を除き全員張切つて練習を開始したのであるが、開始後間もなく本年度リーグ戰も事情により無期延期との知らせを受け、本年を最後とする吾々にとつて淋しさを感づる所があつたのであるが、然し全部員の志氣少しも涅喪する所なく、一般部員約二週間引き續きレギユラー部員のみの二週間と一ケ月餘にわたる長期間技術の方面に又精神的方面に最大の効果を得る事が出來たと確信する。

今や時局の波は、吾々學生スポーツ界にも迫り來り、運動諸具の不足等もスポーツマンとして大いに考へさせられる所があるが、吾々學生スポーツが共同の精神協力一致の精神を養成するを根本目的とするものであるは以上あへて諸具の不足も苦痛ではない練習も最少期間に最大効果があがる樣にし練習以外にも協力一致の精神を養成する方面は澤山ある、斯る意味に於て吾々は合宿中全員野球の應援に又觀劇に臨機有意義の手段により多彩なる合宿生活を送つたのである。今日をもつて合宿生活を終るのであるが此の効果は必ずや五月十八日より開かれる關東選手權に於て諸兄にお知らせする事が出來ると確信する。

(青星寮にて　主將川島一郎)

馬術部

二日深夜に拘らず多數の御見送り有難う。部員一同意氣益々旺盛絶好のコンディションを持ち着仙しました。當地も非常時局の反映を受け闘タク料金は決つて居らず驚く程高いンだ。數丁程しかない宿迄三臺で三圓は無いとこですよ。

今日の豫定は先づ盡過ぎ迄寢て軍中の疲れを癒す事と明日行はれる野外騎乘經路探索と研究ですが此の試合には毎年大雨が付きものである事が不思議だ。今日も曇り此の分では明日が氣づかわれる。

試合第一日。昨日の豫測通り雨だ。併し全力を盡し次の成績を得る。宮城野原頭で行はれた個人障碍飛越は寺尾君優勝。工兵山の野外騎乘、大學、商科、豫科ゲームも減點六〇點七〇點で先づ優秀と言ひたい所だが明日の團體障碍で全ては決する。此の分では明日も雨か。

昭和十五年五月廿五日印刷
昭和十五年五月廿八日發行(非賣品)
▽立教學院維持會
(振替口座東京六七一三五番)
東京市豊島區池袋三ノ一、二七二
編輯兼發行人　中倉俊　正三郎
東京市豊島區西巣鴨四ノ一二一
印刷人　澤田文雄
東京市豊島區西巣鴨四ノ一二一
印刷所　學園印刷所
東京市豊島區池袋
(第四號館)
發行所　財團法人　立教大學構内
立教學院